

コンクリートの種類	強度管理材齢	養生方法	材齢28日までの平均気温	判定基準
普通 コンクリート	28日	現場水中養生	20℃以上	≥Fm
			20℃未満	≥Fc+3
	28日 28日を超え91日以内	標準養生	-	≥Fm
		現場封かん養生	-	≥0.7Fc (注1) ≥Fc+3 (注1)
高強度 コンクリート	m日	標準養生	-	≥Fm (注2)
マスコンクリート	m日	標準養生	-	≥Fm
寒中 コンクリート	28日	現場封かん養生	-	≥0.7Fc (注1)
	28日を超え91日以内			≥Fc+3 (注1)

(7-6). 型枠

- | 材
材
材
材
材
材
材
材
材
材 | 施工箇所 | | セメントの種類 | 存置期間中の平均気温 | | |
|--|------|----------|--|------------|------|------|
| | | | | 15℃以上 | 5℃以上 | 0℃以上 |
| | せき板 | 基礎、梁側柱、壁 | 普通ポルトランドセメント
混合セメントのA種 | 3 | 5 | 8 |
| | | | 中熱ポルトランドセメント
低熱ポルトランドセメント | 6 | 8 | 12 |
| | | | 高炉セメントB種 | 5 | 7 | 10 |
| | | | 普通ポルトランドセメント
混合セメントのA種 | 17 | 25 | 28 |
| | 支柱 | スラブ下 | 中熱ポルトランドセメント
低熱ポルトランドセメント
高炉セメントB種 | 28 | | |
| | | | 全てのセメント | 28 | | |
| | | | 梁下 | 28 | | |

	施工箇所		確認強度
圧縮強度による場合	せき板	基礎、梁側柱、壁	圧縮強度が 5 N/mm^2 以上となるまで 計測使用期間の経が長期、超長期の場合 10 N/mm^2 となるまで
	支柱	スラブ下	圧縮強度が設計基準強度（ F_c ）の85%以上又は 12 N/mm^2 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力によって著しい変形又は亀裂が生じないことが構造計算により確認されるまで
		梁下	圧縮強度が設計基準強度（ F_c ）以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力によって著しい変形又は亀裂が生じないことが構造計算により確認されるまで

(7-7). 打設

- ## 8. 鉄骨工事

8-2. 第三者検査機関

- 8-3. 工事監理者の立会検査対象

8-4. 材料

種 類	規 格 番 号	使 用 箇 所
※ トルシヤ形高力ボルト (S10T)	大広認品	接合部全般
※ J I S 形高力ボルト (F10T)	JIS B 1186	接合部全般
・ 普通ボルト (ボルト, ナット)	JIS B 1180 (六角ボルト) JIS B 1181 (六角ナット)	軽量形鋼
・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T)	大広認品	溶融亜鉛めっき範囲

3) 溶接材料 (7.2.5)

4) アンカーボルト (7.2.4)

アンカーボルトの保持及び埋込み方法		(7. 10. 3)
構造用アンカーボルト	※ A種	・ B種
建方用アンカーボルト	※ A種	※ B種
ベースプレートの保持		
構造用アンカーボルト	※ A種	・ B種
建方用アンカーボルト	※ A種	※ B種
均しモルタル		
無収縮モルタル	※ 圧縮強度：50 N/mm ² 以上	

5) デッキプレート (JIS G 3352)	(7. 2. 7)
-------------------------	-----------

種 類	材 質	備 考
・ 合成スラブ用デッキプレート	※ SDP2G(Z27)	
・ 床型枠用デッキプレート	※ SGCC ・ SGHC	
・ デッキプレート	※ SDP1TG(Z12) ・ SDP1TG(Z27) ・ SDP2G(Z27)	

6) ターンバックル (JIS A 5540) (7.2.6)

ターンバックル胴	※ 割棒式	・ パイプ式
ターンバックルボルト	※ 羽子板ボルト	・ アイボルト ・ 両ねじボルト

8-5. 高力ボルト接合 (7.4)

摩擦面の処理

黒皮をショットブラスト・グラインダー掛けで除去後赤錆状態であること。やむをえず、薬液を使用する場合は、工事監督者に仕様書を提出し、承諾を受けること。

フレーザープレートも同様の処理とする。

8-6. 溶接接合 (7.6)

- | 1) 溶接技能者 | | (7.6.3) |
|-------------------------------|----------------------------|------------|
| 溶接技能者は、工事に相当した次に示す資格を有する者とする。 | | |
| 溶接方法 | 所有する資格 | 規格番号 |
| 手溶接 | A- 2F,2H,2V 又は A- 3F,3H,3V | JIS Z 3801 |
| 半自動溶接 | A- 2F,2H,2V 又は A- 3F,3H,3V | JIS Z 3841 |
| 自動溶接 | 上記のいずれかの資格 | |

突合せ溶接を行う溶接技能者に対する技能付加試験

工 場	※ 行う	・ 行わない
工事現場	※ 行う	・ 行わない

AW検定有資格者は技能付加試験を免除することができる。免除を受ける場合は、製作要領書に資格証を添付すること。

ロボット溶接オペレーターに対する技能付加試験

	※ 行う	・ 行わない
--	------	--------

ロボット溶接を使用する場合は工事監理者の承認を受けること。

AW検定有資格者は技能付加試験を免除することができる。免除を受ける場合は、製作要領書に資格証及びAW検定承認印のある施工要領書、付属書を添付すること。

2) 溶接部の検査方法

溶接部の検査方法は「鋼構造建築溶接部の超音波深層検査規準」（日本建築学会）による。

3) 鉄骨製作工場における自主検査 (7. 6. 11)

溶接部の検査

超音波深層試験(突合せ溶接部)	100%
外観検査	100%
食い違い・仕口のずれの検査	100%

「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

溶接部の温度管理 (7. 6. 10)

鋼材 溶接材料	400N/mm ²		490N/mm ²		520N/mm ²	
	入熱量 KJ/cm	パス間温度 ℃	入熱量 KJ/cm	パス間温度 ℃	入熱量 KJ/cm	パス間温度 ℃
YGW-11・15	15~40	≦350	15~30	≦250	/	
YGW-18・19	15~40	≦350	15~40 15~30(注)	≦350 ≦250(注)	15~30	≦250

抜き取り率 ※ 30%
 ロットの構成は、1 節毎が 300 箇所以下とする。
 ロットの検査は、不合格率 5.0% 以下をロット合格とする。
 ロット不合格の場合は、全数検査とする。
 「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

		春日部市 学校教育部 教育施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : ----	春日部市学校温水プール建設工事	構造関係特記仕様書（3）	S-003
				A3 : ----			

構造関係特記仕様書（４）【使用構造材料一覧表・施工方法等計画書】

5) 工事現場における第三者検査

溶接部の検査

超音波探傷試験(突合せ溶接部)

抜き取り率 ※ 100%

外観検査

抜き取り率 ※ 100%

550N／mm² 級鋼材の溶接を行う場合の施工試験

※ 行う

・ 行わない

(一社) AW検定協会の溶接施工要領評価を取得している場合は、免除することができる。

免除を受ける場合は、製所要領書に評価書の写しを添付すること。

食い違い・仕口のずれの検査

抜き取り率 ※ 100%

「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

6) スタッド及びデッキプレートの溶接

スタッド溶接工の技量付加試験

・ 行う

※ 行わない

横向き姿勢となる場合は、「スタッド溶接技能者技術検定試験（スタッド協会）」のB級資格者とする。

デッキプレートの溶接方法

合成スラブ用デッキプレート

※ 焼抜栓溶接

床型枠用デッキプレート

・ 焼抜栓溶接

※ アークスポット栓溶接

・ 隅肉溶接

7) 代替エンドタブを使用した場合の検査方法

代替エンドタブ（ブラックスタブ）を使用した突き合わせ溶接部の両端部からそれぞれ板厚かつ35mmまでの範囲は基準感度+6dB（倍感度）の探傷感度で検査を行うこと。

上記は「鉄骨製作工場における自主検査」「鉄骨製作工場における第三者検査」「工事現場における第三者検査」のいずれにおいても対象とする。

欠陥の評価長さは「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」（日本建築学会）による。

(8-7). 建て方精度

施工者は建て方完了時に精度を監理者に報告し承認を受ける事。

(8-8). 錆止め塗装

(7. 8)

1) 範囲及び塗料種別

塗装範囲	塗料種別	規格番号	備 考
※ 仕上げ塗装を行う部分	A 種	JIS K 5674	
※ 鋼製スリーブ内面	A 種	JIS K 5674	
※ 工事現場溶接部			防錆処理剤
・ 建物外周部	A 種	JIS K 5674	
(腐食・錆の飛散防止)			

仕上げ塗装の仕様及び範囲は意匠図による。

「腐食・錆の飛散のおそれがある箇所は、工事監理者と協議し必要に応じて対策を講ずること」

2) 錆止め塗料塗り

工 程		塗料種別		備 考
		A 種	B 種	
素地ごしらえ		○	○	
1	錆止め塗料塗り（下塗り1回目）	○	○	
2	研磨紙すり	○		
3	錆止め塗料塗り（下塗り2回目）	○	○	

a) 素地ごしらえ、塗り工法等は標準仕様書による。

b) 塗装は原則として工場塗りとする。現場塗りは補修のみとし塗り回数は1回とする。

3) 塗装しない部分

a) コンクリートに密着する部分及び埋め込まれる部分

b) 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面

c) 密閉される閉鎖形断面の内面

d) ピン、ローラー等密着する部分及び回転又は揺動面で削り仕上げした部分

e) 組立によって肌合せとなる部分

※ 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ100mm程度の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲の塗装は、超音波探傷試験の完了後に行う。

4) 耐火被覆部分の錆止め塗装

a) 吹付け等の鋼面に付着する耐火材に被覆される部分は、原則として錆止め塗装を行わない。ただし、錆止め塗装を必要とする部分は、JIS K 5674（A種）の1種・1回塗り、あるいは耐火被覆の付着性を損なわない仕様とすること。

b) 耐火板等の鋼面に付着しない耐火材に被覆される部分は、JIS K 5674（A種）とする。

5) 鉄面の素地ごしらえ

種別

・ A 種（酸洗い）

・ B 種（プラスト）

※ C 種（サンダー）

6) 建設住宅性能評価を取得する場合は「日本住宅性能表示基準・評価方法基準（最新版）」による。

(8-9). 耐火被覆

(7. 9)

1) 耐火被覆の種別及び性能

耐火被覆はラス張りモルタル塗り、耐火材吹付け、耐火板張り又は耐火材巻付けのいずれかとし、その種別及び性能は意匠図による。

2) 耐火被覆の範囲

耐火被覆の適用範囲は鉛直荷重を支持する部材とし、下記の部位は不要とする。

鉄骨階段

鉛直荷重を受けないブレース材

座屈止め材

(8-10). 溶融亜鉛めっき

(7. 12)

1) 種別（JIS H 8641）

適用部位	板厚（mm）	種別	記号	備考
鋼 材	6.0 以上	A 種	HDZT 77	
	3.2 以上	B 種	HDZT 63	
	1.6 以上	C 種	HDZT 49	
普通ボルト、アンカーボルト		C 種	HDZT 49	

2) めっき工場

J I S 表示認定工場とする。

3) めっき範囲

屋外鉄骨階段、屋外設備架台

4) 酸化物の除去方法

※ 酸洗い

・ プラスト法

(注) 鋳物の場合はプラスト法による

5) 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合部分の摩擦面の処理（μ=0.40）

※ プラスト処理

すべり係数試験

・ 行う

※ 行わない

※ リン酸処理

すべり係数試験

※ 行う

・ 行わない

リン酸処理とする場合はメーカーカタログ及び鉄骨製作工場における実績を工事監理者に提出すること。

6) 建設住宅性能評価を取得する場合は「日本住宅性能表示基準・評価方法基準（最新版）」による。

9. 外装パネル工事

(9-1). 耐震性能（面内外変形性能）

最大層間変形角は階高の1／100とし、下記の性能を満足すること。

a) 階高の1／300でパネル材に何ら損傷なく弾性範囲内において雨仕舞を含め安全性が確保されていること。

b) 階高の1／200で主要部材に損傷なく雨仕舞及び二次部材等について補修により再使用可能な程度の損傷にとどめること。

c) 階高の1／100でパネル材に破損が生しても形を保ち、主要部材及び硝子の破損、脱落のないこと。

(9-2). P C版材料等

コンクリートの種別

・ 普通コンクリート

・ 軽量コンクリート

・ その他

設計基準強度

Fc = N/mm²

比 重

ρ =

業者決定後、取付方法は工事監理者の承諾を受けること。

ただし、工事監理者の指示により取付方法等の変更による部材補強を行う場合がある。

10. 建築設備の構造方法

(10-1). 令第129条の2の3の事項

建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

a) 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は、腐朽のおそれがないものとする。

b) 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

c) 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

d) 煙突で室内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

e) 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

f) 建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

g) 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

h) 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

i) 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

j) 昇降機は支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。

k) 給湯設備については風圧、土圧及び水圧ならびに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とし、国交省第1447号で定められたアンカーボルト等で緊結すること。

l) エスカレーターの脱落防止対策については、告示1046号、1495号で規定された対策を講ずること。

11. 建築物における天井脱落対策

(11-1). 特定天井の有無

特定天井

※ 無し

・ 有り

(注) 天井の高さ6m超の高さにあり、かつ水平投影面積200m²超、かつ単位面積質量2kg／m²超（下地材含む）の吊り天井で、人が日常利用する場所に設置されているもの

11-2. 特定天井の構造方法

1) 天井の種類

・ 在来工法による吊り天井

・ システム天井

・ その他の天井

2) 天井の設置場所

階見上げ（階床下）

3) 天井の規模

高さ m、面積 m²

4) 天井の重量

単位面積質量 kg/m²

5) 天井の耐久性

令第39条第4項の規定に基づき、必要に応じ、腐食しにくい材料の使用、有効なさび止めなどの措置を講じている。

6) 設計ルート

・ 仕様ルート（告示771号第3号第1項）

・ 水平震度法（告示771号第3号第2項第一号）

・ 応答スペクトル法、簡易スペクトル法（告示771号第3号第2項第二号）

・ 大臣認定ルート（令第39条第3項）

12. 建築物に付随する付属物の設置

(12-1). 地震観測システム（加速度計）

1) 設置箇所数

※ 無し

・ 有り（カ所）

2) 設置階

・ 地表面

・ 最下階

・ 免震層直上階

・ 最上階

・ その他（階）

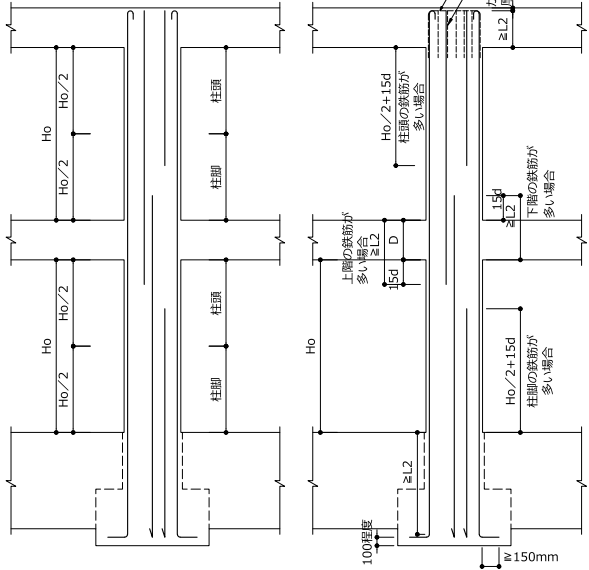
設置位置については工事監理者の承諾を受けて決定すること。

		春日部市 学校教育 施設課	縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
			A1：---- A3：----	春日部市学校温水プール建設工事	構造関係特記仕様書（4）	S-004

5. 柱配筋標準

5-1 柱主筋の配筋区分及び定着

1) 主筋の配筋区分

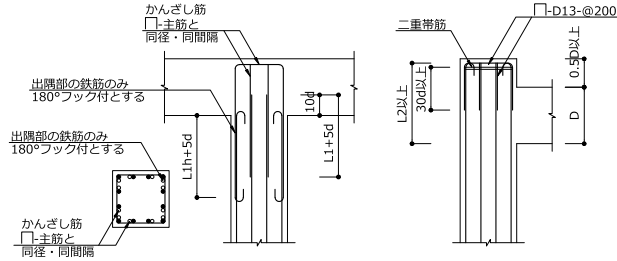


- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 柱脚部の水平曲げ（150mm）を省略しても鉄筋の保持が容易な場合は、工事監理者の承諾を受けて省略することができる。
- 柱主筋がD29以上の場合の柱頭部はプレート定着とする。

3) 柱頭部の定着（柱頭主筋がL2定着出来ない場合）

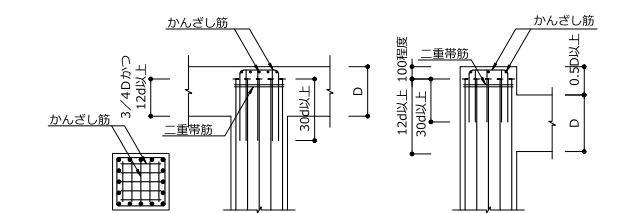
a) プレート定着を用いない場合

- かんざし筋を用いる場合



b) プレート定着の場合（評定条件を満足すること。）

- かんざし筋を用いる場合



5-2 柱主筋の継手位置

	圧接継手	機械式継手	P C a 柱の柱主筋の継手
一般階			
1 階			

5-3 帯筋組立の形

1) 主帯筋

タイプ	スパイラル形 (SP形)	溶接閉鎖形	フック形 (H形)	SRCの仕口部 (W-I形)
角形				
丸形				
注意事項		溶接位置は四方又は対面に分散させること。	ダブルフック形は原則として使用しない。使用する場合は工事監理者の承諾を受けること。 フックの位置は四隅又は対面に分散させること。	機械式継手の使用を可とする。ただし、工事監理者の承諾を得ること。

2) 副帯筋

マルスパイラル形	溶接閉鎖形	フック形

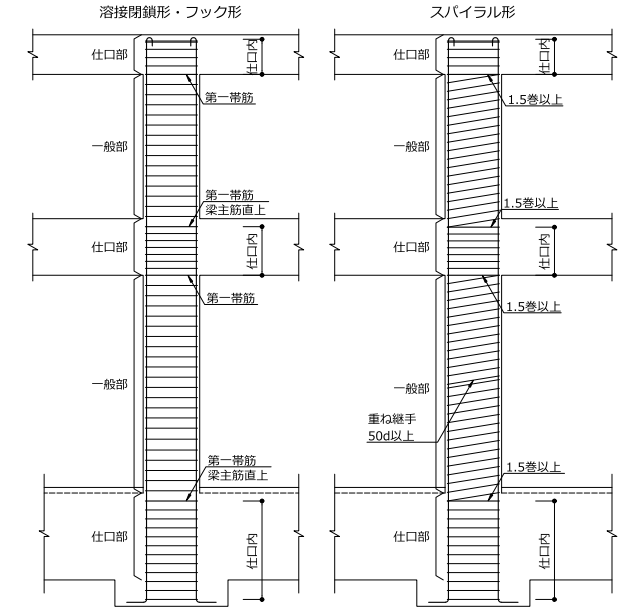
3) 柱主筋の二段配筋

両方向	片方向

- 二段配筋のあきは、鉄筋径の1.5倍とする。
- 位置確保の鉄筋は、帯筋と同径、鉄筋材質はSD295とする。
- 位置確保の鉄筋は、始点と終点は梁面とし、各階ごとに4箇所以上かつ@400以内とする。

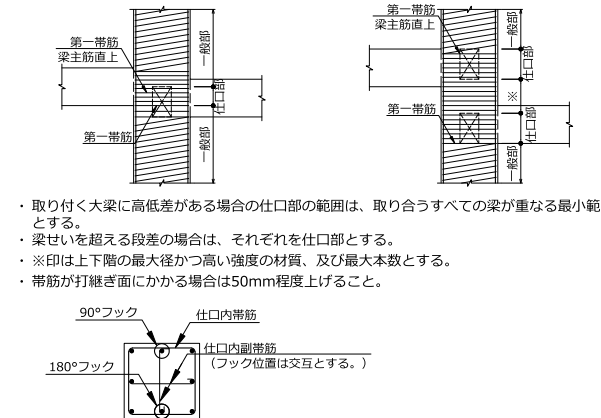
5-4 帯筋の割付け

1) 帯筋・副帯筋



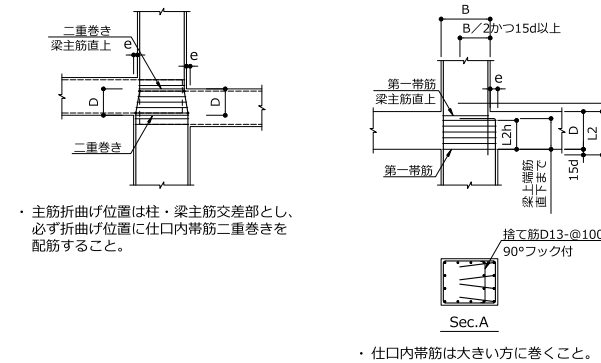
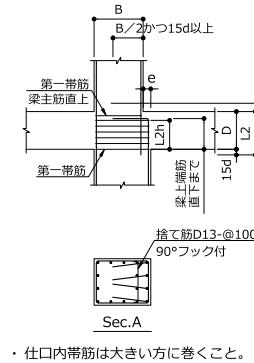
- 仕口部 RC造：@100、SRC造：@150
- 上記を満足していない場合は、工事監理者と必要本数を協議したうえで配筋すること。（束ね筋も可とする）
- 帯筋が打継ぎ面にかかる場合は50mm程度上げること。

2) 仕口部の範囲及び副帯筋



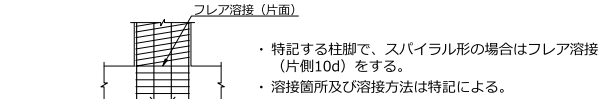
- 取り付く大梁に高低差がある場合の仕口部の範囲は、取り合うすべての梁が重なる最小範囲とする。
- 梁せいを越える段差の場合は、それぞれを仕口部とする。
- ※印は上下階の最大径かつ高い強度の材質、及び最大本数とする。
- 帯筋が打継ぎ面にかかる場合は50mm程度上げること。

3) 柱しぼり部の配筋

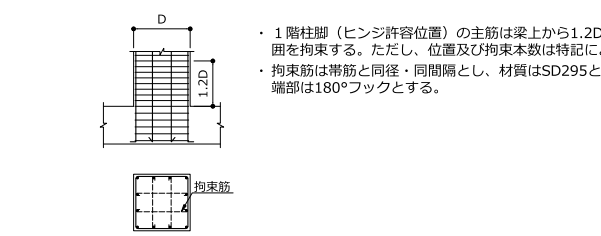
a) $e/D \leq 1/6$ の場合b) $e/D > 1/6$ の場合

5-5 柱脚部の補強

1) スパイラル筋のフレア溶接



2) 柱脚主筋の拘束



5-6 柱打増要領

	A の 範 囲	軸方向補強筋
①	$A < 70$	補強なし
②	$70 \leq A \leq 300$	D16 を@300で割付 D19 を@300で割付 (特記がある場合はそれによる。)
③	$300 < A$	

- 柱打増部分の帯筋は、柱の帯筋と同径・同間隔とし、材質はSD295とする。
- 軸方向補強筋はL2定着とする。
- 無筋状態の最大寸法は120mm未満とし、120mm以上の場合はA寸法に関わらず②の配筋とする。

5-7 補助フープ要領

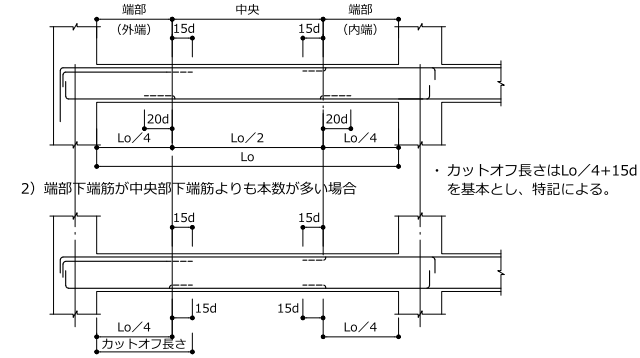
	柱 幅	補助フープ
	$B \cdot D \leq 600$	不 要
	$600 < B \cdot D \leq 1,000$	1-D10-@300
	$1,000 < B \cdot D \leq 1,500$	2-D10-@300
	$1,500 < B \cdot D$	n-D10-@300 n: D10を@500以下で割り付ける。

- 副帯筋（中子筋）がある場合は省略可とする。

6. 梁配筋標準

6-1 梁主筋の配筋区分

1) 中央部下端筋が端部下端筋よりも本数が多い場合



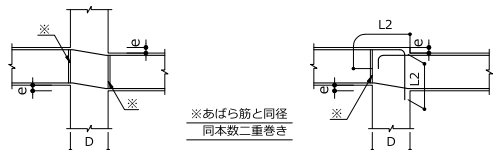
- カットオフ長さは $L_o/4 + 15d$ を基本とし、特記による。

6-2 梁主筋の定着

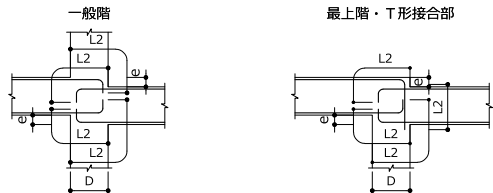
タイプ	位置	外端部	内端部
直線定着	最上階		
	一般階		
90°フック付き直線定着	最上階		
	一般階		
折曲げ定着	最上階		
	一般階		
プレート定着	最上階		
	一般階		

- 梁主筋の梁内定着は不可とする。ただし、地下階及び工事監理者が認めた部位は可とする。
- R C造の下端筋は曲げ上げを原則とし、S R C造は曲げ下ろしを原則とする。

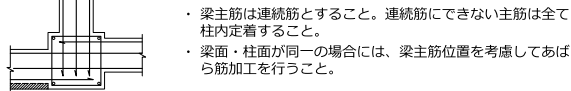
1) 段違い梁の定着

a) $e/D \leq 1/6$ の場合

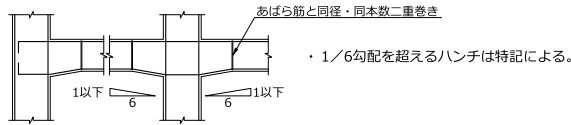
・最上階の上端は引き通し不可とする。

b) $1/2 > e/D > 1/6$ の場合・柱内に定着すること。
・ $e/D \geq 1/2$ の場合は特記による。

2) 梁芯ずれの主筋定着

・梁主筋は連続筋とすること。連続筋にできない主筋は全て柱内定着すること。
・梁面・柱面が同一の場合には、梁主筋位置を考慮してあばら筋加工を行うこと。

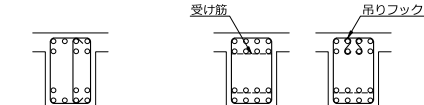
3) ハンチ梁の配筋



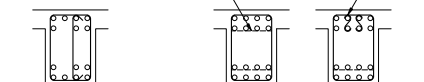
・1/6勾配を超えるハンチは特記による。

4) 梁主筋の二段配筋

副あばら筋がある場合

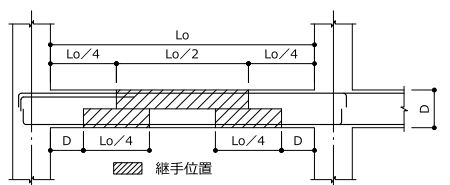


副あばら筋がない場合

・主筋のあきは主筋径の1.5倍を基本とし、特記による。
・受け筋は、D10-@1,000以下とする。主筋径により径とピッチを考慮すること。
・下端筋はバーサポートも可とする。

6-3 梁主筋の継手位置

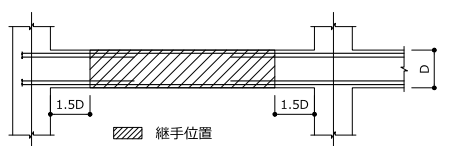
1) 圧接継手



・圧接継手の隣り合う継手位置は下図のとおり400mm以上離すこと。



2) 機械式継手・溶接継手



・機械式継手、溶接継手の継手位置は同一直線上（全数継手）とする。

6-4 あばら筋組立の形

1) 主あばら筋

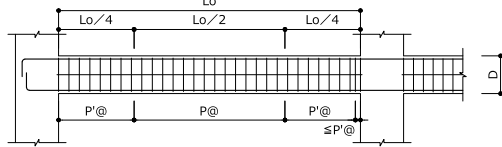
	標準形	キャップタイ形	スラブなし（小梁のみ）
フック形			
溶接閉鎖形			

2) 副あばら筋の形

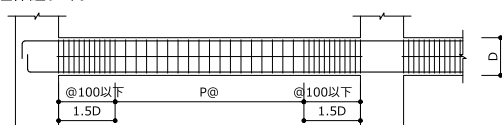
	フック形	溶接閉鎖形
フック形		
溶接閉鎖形		

6-5 あばら筋の割付け

1) 標準タイプ



2) 靱性保証タイプ



・靱性保証タイプを使用する範囲は特記による。

6-6 腹筋及び巾止め筋

	梁 成	腹 筋
①	$D < 600$	不 要
②	$600 \leq D < 900$	2-D10
③	$900 \leq D < 1,200$	4-D10
④	$1,200 \leq D \leq 1,500$	6-D10
⑤	$1,500 < D$	D10を@400以下で割り付ける

6-7 梁打増し要領

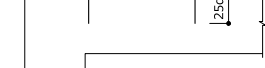
	A の 範 囲	主筋方向補強筋
①	$A < 70$	補強なし
②	$70 \leq A \leq 300$	D16を@300以下で割り付ける
③	$300 < A$	D16を@300以下で割り付ける

・あばら筋は取付く梁のあばら筋と同径・同間隔とし、材質はSD295とする。

・腹筋は取付く梁の腹筋と同径・同間隔、同材質とする。

・無筋状態の最大寸法は120mm未満とし、120mm以上の場合はA寸法に関わらず②の配筋とすること。

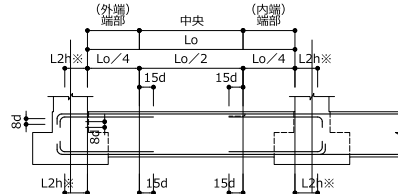
補強筋定着要領



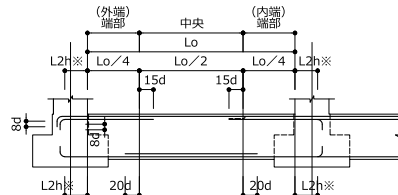
7. 基礎梁配筋標準

7-1 基礎梁主筋の配筋及び定着

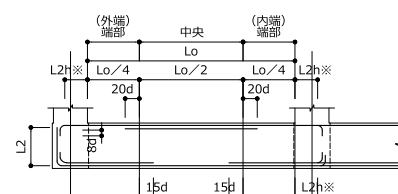
1) 端部下端筋が中央下端筋より本数が多い場合



2) 中央部下端筋が端部下端筋より本数が多い場合

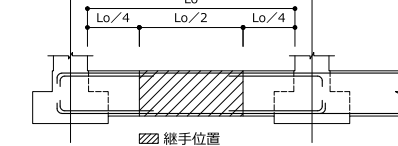


3) 連続基礎及びベタ基礎の場合

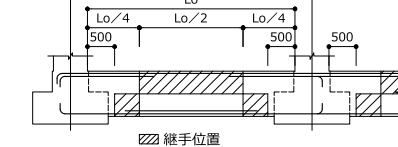
・基礎梁主筋は梁内定着を可とする。
・基礎梁外端以外L2定着を可とする。
・※印：L2hを確保できない場合は、「6-2 梁主筋の定着」折曲げ定着によることができる。

7-2 基礎梁主筋の継手

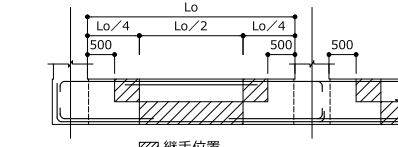
1) 杭基礎の場合



2) 独立基礎の場合

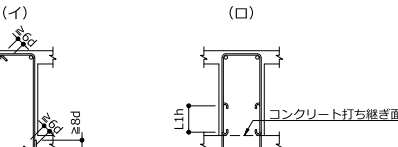


3) 連続基礎及びベタ基礎の場合



7-3 基礎梁のあばら筋の形

梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1,500以上の場合は下図によることができる。



7-4 基礎梁の腹筋

	梁 成	腹 筋
①	$D < 600$	不 要
②	$600 \leq D < 900$	2-D13 (2-D10)
③	$900 \leq D < 1,200$	4-D13 (4-D10)
④	$1,200 \leq D < 2,000$	6-D13 (6-D10)
⑤	$2,000 \leq D$	D13を@500以下で割り付ける

・基礎梁腹筋の定着長さは柱面、直交する梁面よりL2とする。また、通し配筋としてもよい。

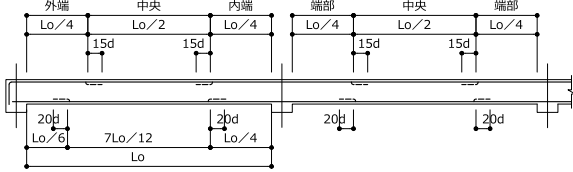
・継手長さはL1とする。

・()内はあばら筋がD10の場合を示す。

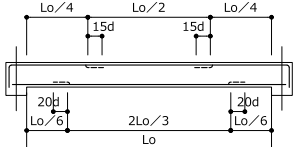
8. 小梁配筋標準

8-1 小梁主筋の配筋区分

1) 連続小梁

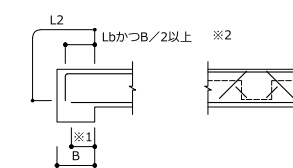


2) 単純小梁



8-2 小梁主筋の定着

1) 外端部



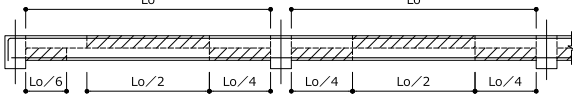
2) 連続端部

・小梁主筋は梁内定着を可とする。

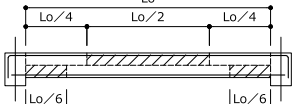
・※1：L3を確保できない場合は、L3hとすることができる。
・※2：定着する梁せいが小さく垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜めあるいは水平定着としてよい。

8-3 小梁主筋の継手位置

1) 連続小梁

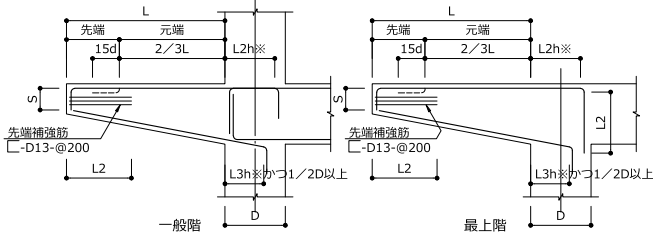


2) 単純小梁

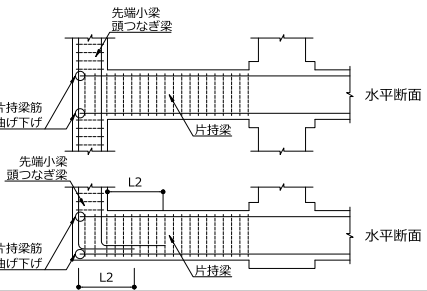


9. 片持梁の配筋標準

9-1 片持梁主筋の配筋区分・定着継手

・主筋は連続する大梁からの通し配筋とする。通し配筋できない場合は、柱内定着とし、梁内定着は不可とする。
・※印：L2h・L3hを確保できない場合は、「6-2 梁主筋の定着」折曲げ定着によることができる。
・継手を設ける場合は工事監理者と協議すること。
・先端の折曲げの長さSは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
・片持梁が連続する小梁の端部は、内端配筋とする。
・下端筋を直線定着する場合は、25d以上とする。
・上端筋先端は定着板も可とする。ただし評定条件を満足し、必要に応じて先端補強筋（ステップ筋）を設けること。

9-2 先端小梁の片持梁への定着

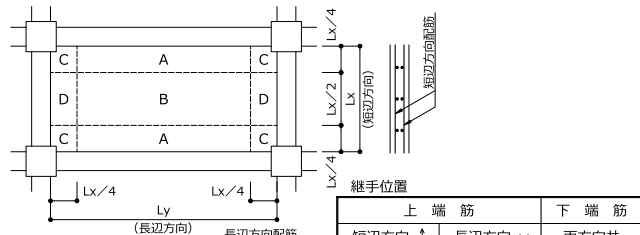


鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）

2025年6月版

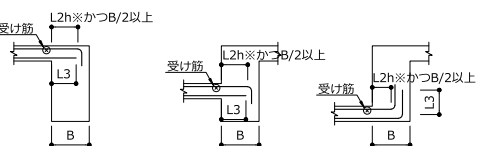
10. スラブ配筋標準

10-1 スラブ筋の配筋区分と継手



- スラブ筋の割付は中央から行い、端部で定められた間隔以下とする。
- スラブ筋継手長さは、L1 とする。

10-2 スラブ筋の定着

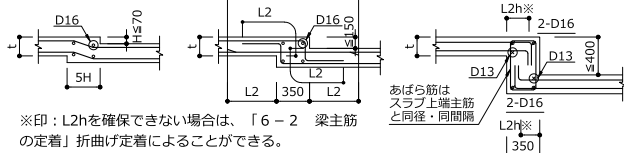


- 受け筋はD13かつスラブ上端筋と同径以上とする。
- スラブ筋は、スラブ内定着を可とする。
- ※印：L2hを確保できない場合は、「6-2 梁主筋の定着」折曲げ定着によることができる。
- 梁打増し部に補強筋がない場合は、梁内定着とする。

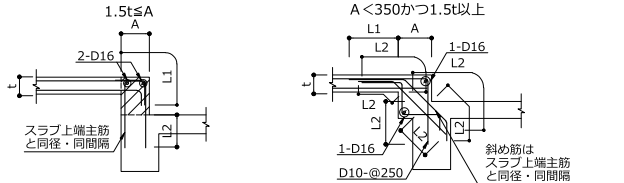
10-3 段違いスラブの配筋

1) スラブの段差

スラブ段差 ≤70mm

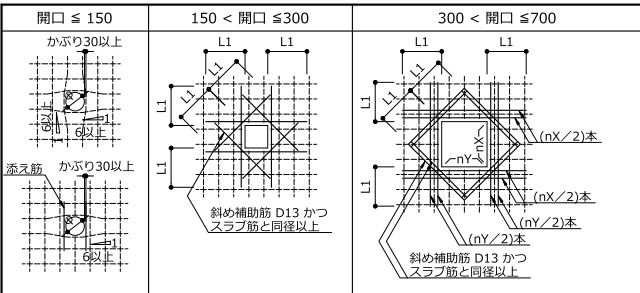


2) 梁よりスラブが高い場合



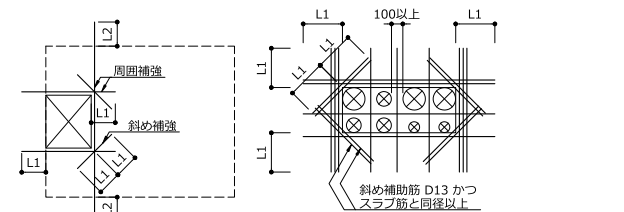
10-4 スラブの開孔補強

1) 開孔が700mm以下の場合



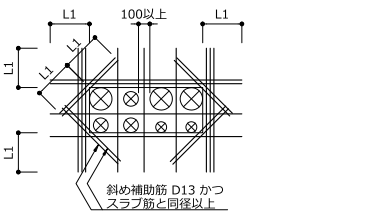
- 開孔が150mm以下でも、鉄筋の折曲げ角度1/6を超える場合は、切り替えて添え筋をすること。
- 片持スラブに300mmを超えて700mm以下の開孔がある場合は、梁に直交する補強筋を梁内に定着すること。
- 開孔部が梁又は壁に接する場合は、接する側の補強を省略することができる。
- 斜め筋はシングル配筋とし、上下筋の内側に配筋すること。

2) 開孔が700mmを超える場合

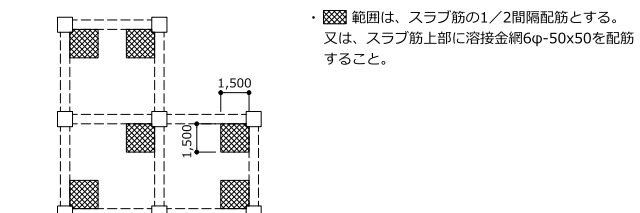


- 補強筋は特記による。
- 外接する長方形の最大寸法により、補強を行うこと。
- 開口間には2-D10を入れること。
- 開口間のあきは、原則として100mm以上とする。

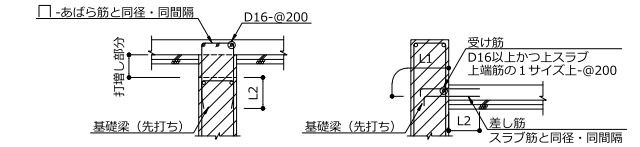
3) 小開口が連続する場合



10-5 屋根スラブの補強要領

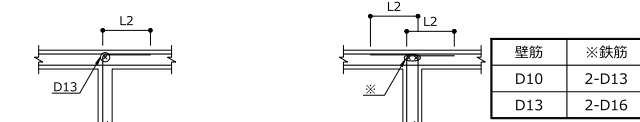


10-6 1階後打ちスラブ差し筋

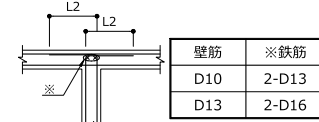


10-7 スラブと壁の取合い要領

1) シングル・チドリ配筋の場合

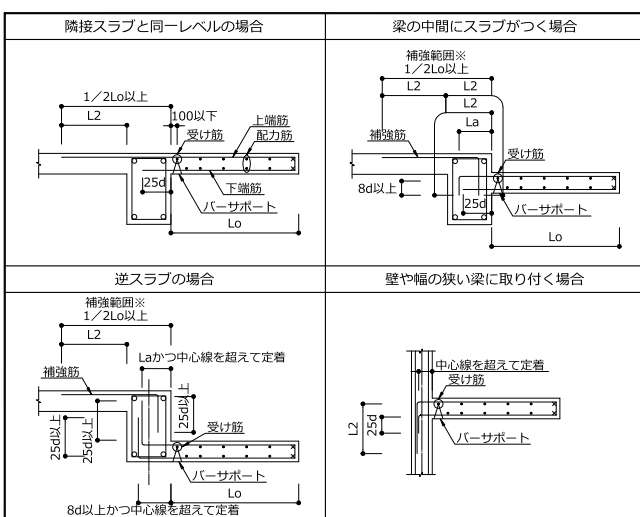


2) ダブル配筋の場合



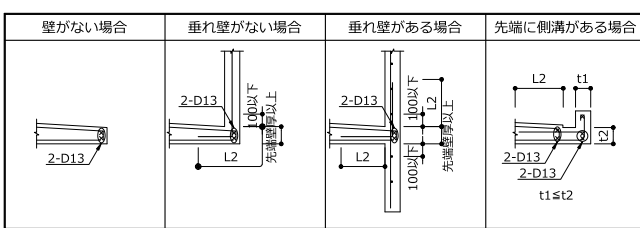
11. 片持スラブ配筋標準

11-1 片持スラブ筋の配筋区分・定着及び継手

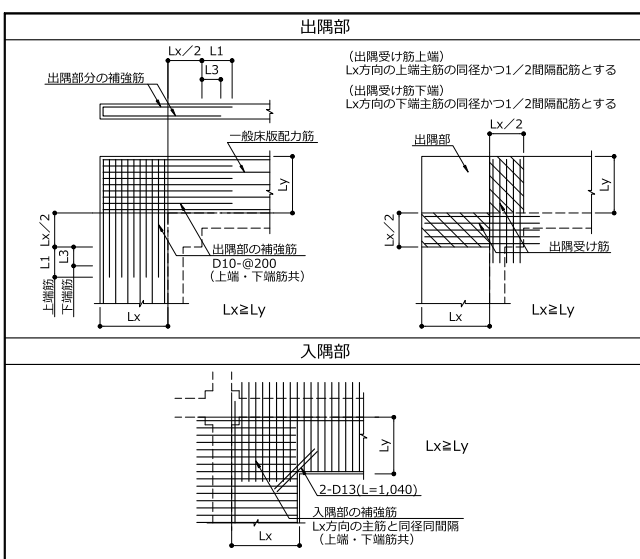


- 片持スラブの継手は不可とする。Pca化等によりやむを得ない場合は、継手長さをL1とし、工事監理者の承諾を受けること。
- 補強範囲※は、片持スラブ上端筋と同配筋以上となるように補強すること。
- 受け筋はD13(L≤1,000)・D16(L>1,000)とすること。

11-2 片持スラブ先端部の配筋

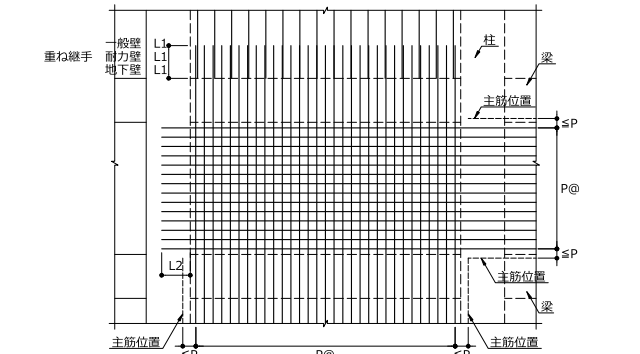


11-3 片持ちスラブ出隅部入隅部の補強



12. 壁配筋標準

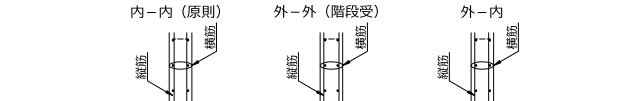
12-1 壁筋の定着及び継手



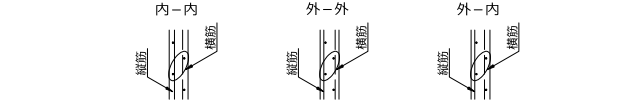
- 継手長さがとれない場合は、工事監理者の承諾を受けてフレア溶接継手又は機械式継手とすることができる。
- 幅止め筋は、縦・横共 D10-@1,000 程度とする。
- 上下のピッチ等が異なる場合はあき重ね継手とすること。
- 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
- 原則として、柱及び梁内に壁筋の継手を設けてはいけない。
- 計算ルートが1または2の場合は耐力壁の重ね継手長さはL1かつ40d以上とする。

12-2 壁筋の配筋要領

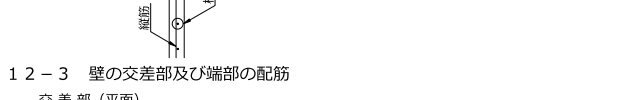
1) ダブル配筋



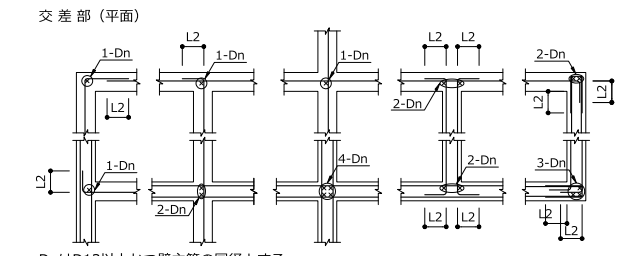
2) チドリ配筋



3) シングル配筋



12-3 壁の交差部及び端部の配筋

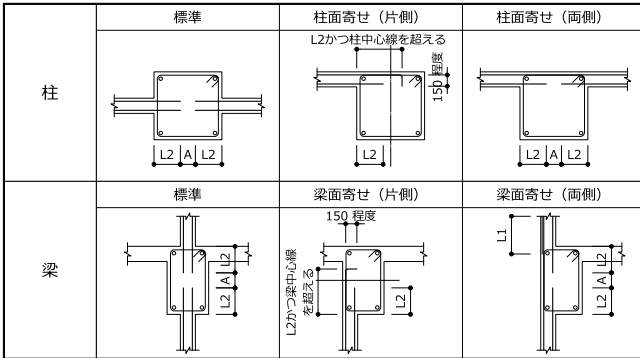


- DnはD13以上かつ壁主筋の同径とする。

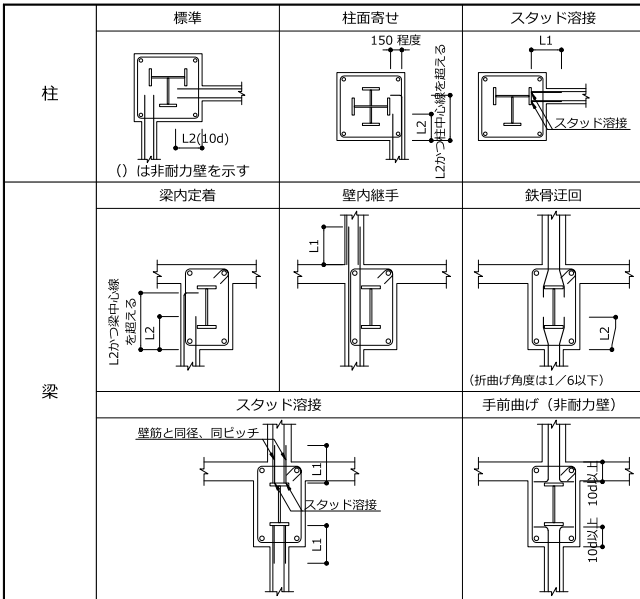
12-4 壁配筋の柱・梁への定着

1) RC造

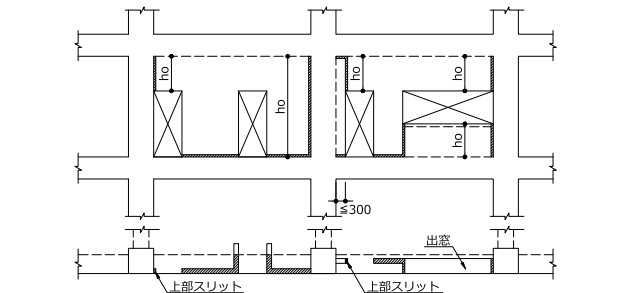
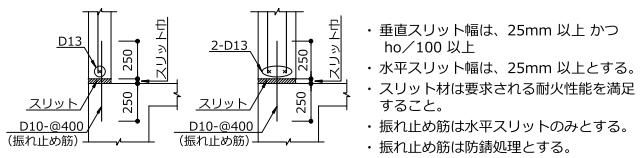
- A区間の部分は通し配筋でもよい。



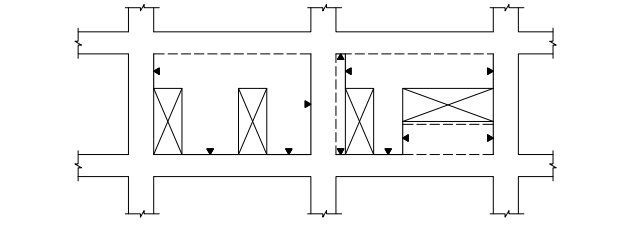
2) SRC造



12-5 非耐力壁のスリット要領

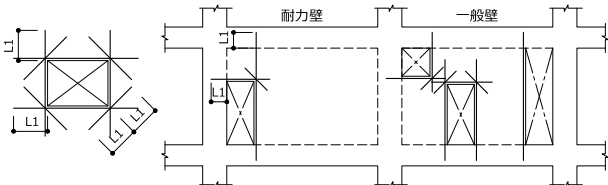


- 図示方法は以下とする



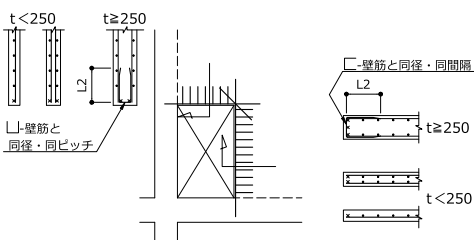
1 2－6 壁開口部の補強

1) 開口補強筋の定着



- ・ダブル配筋の場合の開口補強筋は、壁筋の内側に配筋する。
- ・既製品及びメッシュ筋の採用については、工事監理者の承諾を受けること。

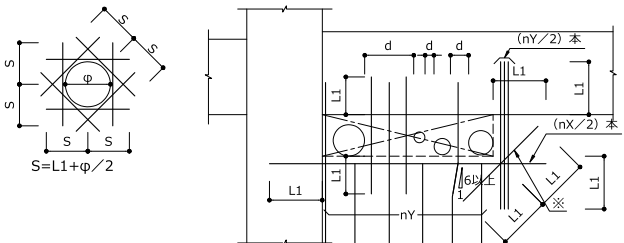
2) 開口部の配筋要領



- ・開口補強筋は特記による。

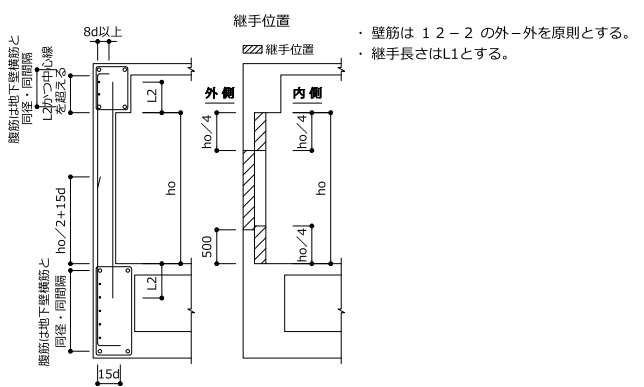
3) 非耐力壁のスリーブ開口補強要領

- ・単体スリーブ
- ・スリーブ同士がすべて密集している場合（1つの開口として扱う場合）



- ・耐力壁の開口補強は壁リストによること
- ・斜め補強筋（上図※）は以下とする。
開口 ≤ 300 , 1-D13かつ壁筋と同径以上
開口 > 300 , 2-D13かつ壁筋と同径以上
- ・鉄筋の折り曲げ角度1/6を超える場合は、切り替えて添え筋をすること。
- ・外接する長方形の最大寸法により、補強を行うこと。
- ・開口間にはD10（ダブル配筋の場合2-D10）を入れること。
- ・dは、原則として100mm以上500mm以下とする。

1 2－7 地下外壁の配筋要領



- ・壁筋は1 2－2の外-外を原則とする。
- ・継手長さはL1とする。

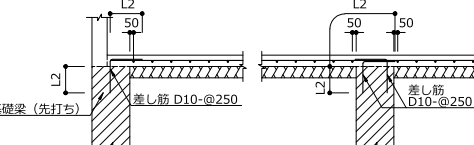
1 3．土間コンクリート

1) 土間コンクリートの配筋

- ・地盤は、十分に締固めること。



2) 土間コンクリート配筋の定着



1 4．CD管・コンセントボックス躯体内配管要領

- ・屋上スラブ及び外壁の配管は原則として不可とする。
- ・管の最大外径は壁・スラブ厚さの1/5以下かつ28mm以下を原則とし、壁・スラブ厚が150mmを超える場合の最大外径は工事監理者と協議の上変更可とする。
- ・管相互のあきは管外径の4倍以上確保し、平行鉄筋とのあきは30mm以上確保すること。
- ・スラブの管交差は1段階ねまでとし、交差部で鉄筋とのあきは30mm以上確保すること。
- ・壁配管は原則として垂直配管のみとし、横走り及びクロス配管は不可とする。
- ・主筋に添えて結束してはならない。
- ・柱及び梁との平行配管は柱面及び梁面から500mm以上離すこと。
- ・配管方法については工事監理者の承諾を受けること。
- ・コンセントボックスの柱内への埋込不可とする。
- ・コンセントボックスを壁内へ埋込む場合は工事監理者の承諾を受けること。
- ・避雷導体は柱主筋に取り付けけないこと。

1 5．梁貫通孔補強配筋

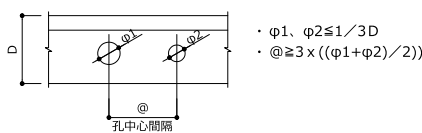
1 5－1 一般事項

- ・梁貫通孔補強は、日本建築センター評定品（評価品）を採用し、補強計算書を提出し工事監理者の承諾を受けること。
- ・上記評定品の施工については、各社「施工マニュアル」に従うこと。
- ・孔径（φ）はスリーブ外径を示す。
- ・施工に先立ち、補強計算書にもとづき梁貫通孔補強筋及び孔際スターラップの種類、枚数の確認を行うこと。

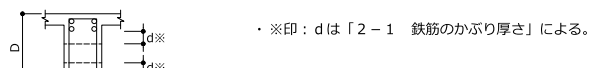
1 5－2 スリーブ可能範囲

1) 一般梁（基礎梁を除く）

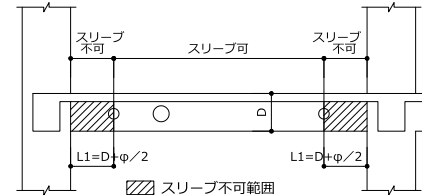
- ・孔径及び孔の中心間隔は下図とする。



- ・孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし下記とする。
また、孔の上下方向の位置の限度は下図とする。



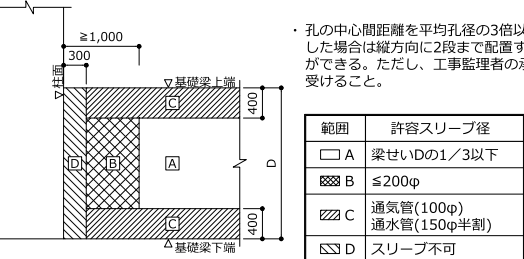
- ・スリーブの位置は下図を原則とする。（基礎梁を除く）
- ・柱際から水平方向の孔中心位置L1は、 $L1 \geq D + \phi / 2$ とする。ただし、既製品の評定範囲内で孔が梁せいの中心付近にある場合は $L1 \geq D$ とすることができる。
- ・構造スリットを設けない壁が取り付く場合は工事監理者と協議の上、スリーブ位置を決定すること。



- ・下記の場合は開口部を避けてあばら筋を配筋できる場合は補強筋を省略できる。
 $\phi \leq 1/10 D$ かつ $\phi < 150$

2) 基礎梁

- 貫通孔位置は下図を原則とし、工事監理者と協議の上最終決定すること。

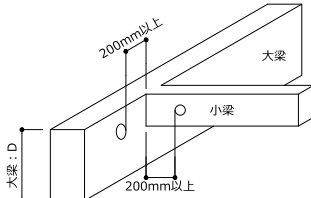


- ・Aの範囲で下記の条件を満足する場合は梁貫通孔の縦方向配置を可とする。
 $\phi \leq 1/10 D$ かつ $\phi \leq 200$
ただし、縦方向 $@ \geq 3 x ((\phi 1 + \phi 2) / 2)$
- ・下記の場合は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は補強筋を省略できる。
 $\phi \leq 1/10 D$ かつ $\phi < 150$

- ・通水管（150φ半割）は上記によらず補強筋を不要とする。
- ・通水管際のスターラップのかぶり厚さは50とする。（屋外）

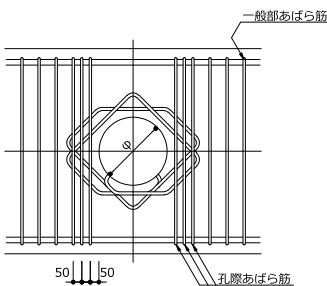
3) 直交梁との距離

- 大梁と小梁が直交する箇所での孔位置は下図による。



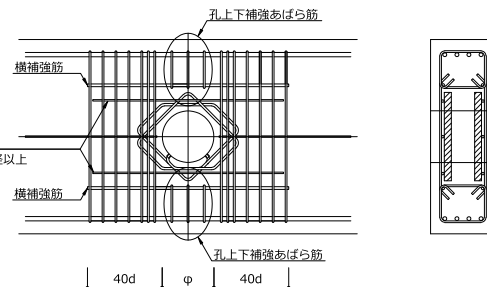
1 5－3 孔左右補強あばら筋要領

- ・通常配筋されるあばら筋を孔の両側に寄せて使用する。孔の両側には、必ず孔際あばら筋を2組以上配筋すること。
- ・孔際あばら筋は一般部あばら筋と同径・同本数・同強度とする。
- ・標準配筋は下記の通りとする。下記以上の補強が必要となる場合があるので、施工の際には、必ず補強計算書を確認し、孔際あばら筋を配筋すること。

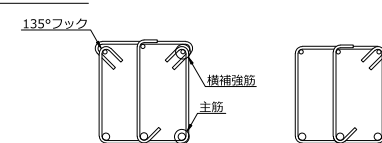


1 5－4 孔上下補強あばら筋要領

- ・ $400 > \phi \geq 300$ の時
横補強筋は、2-D16以上とし、孔上下補強あばら筋は、一般部あばら筋と同径・同本数・同強度・同ピッチとする。
- ・ $\phi \geq 400$ の時
横補強筋は、主筋径の2サイズ下かつ2-D19以上とし、孔上下補強あばら筋は、一般部あばら筋と同径・同本数・同強度・同ピッチとする。
〔中子筋がある場合には、必要に応じて横筋を付加し、中子筋も配筋のこと。〕



孔上下補強あばら筋形状

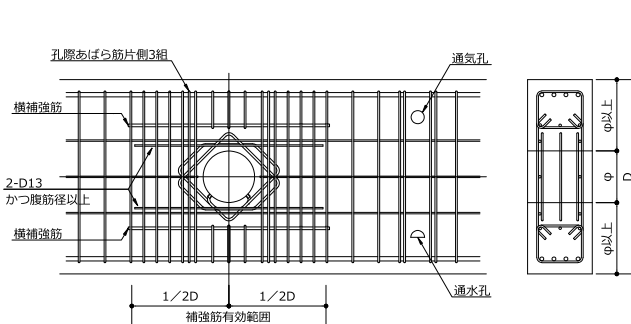


- ・その他

- 上記の孔上下補強あばら筋形状は、評定条件の範囲内で別形状とする場合は、工事監理者の承諾を受けること。

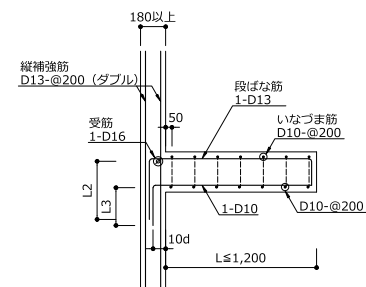
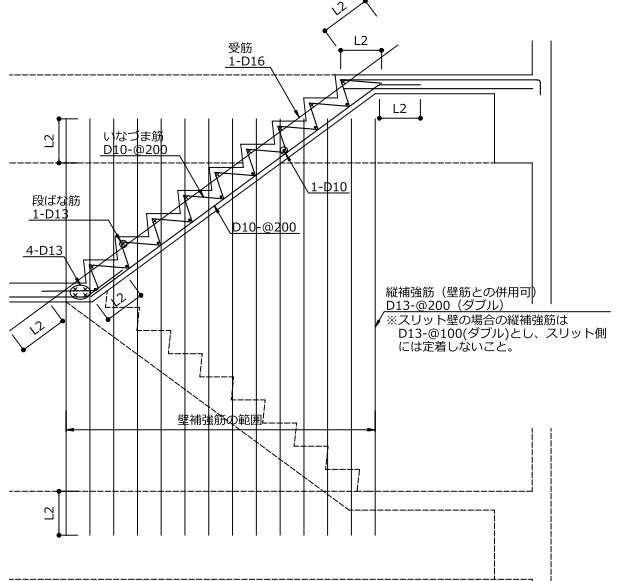
1 5－5 人通孔補強要領

- ・人通孔補強は日本建築センター評定品（評価品）の既製品補強とし、人通孔廻りの横筋・あばら筋は下記によることとする。
- ・人通孔芯高さは原則として梁せいの中央とする。
- ・横補強筋の本数は基礎梁あばら筋と同本数とし、主筋径の2サイズ下かつ2-D19以上とする。孔上下補強あばら筋は、一般部あばら筋と同径・同本数・同強度・同ピッチとする。
- ・人通孔芯から1/2Dの範囲のあばら筋は $@100$ とする。径および本数はリストによる。孔際あばら筋は下記以上の補強が必要となる場合があるので、必ず補強計算書を確認すること。



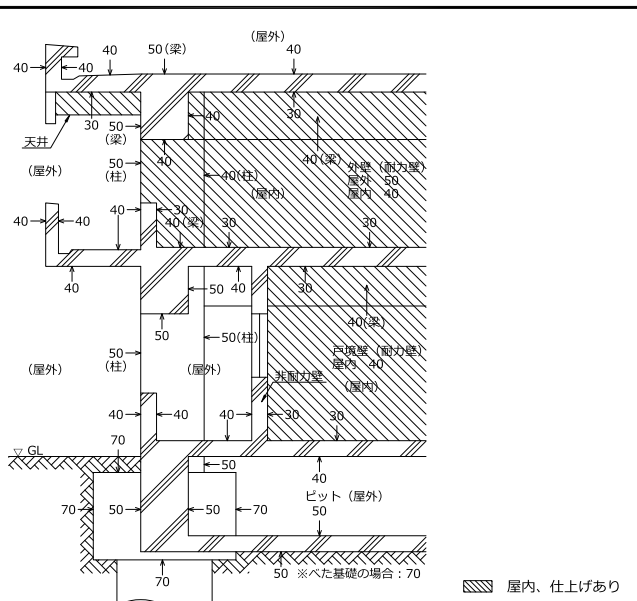
1 6．階段

1 6－1 片持階段と受け壁



- ・ $L > 1,200$ の場合は特記による。

1 7．鉄筋の標準かぶり厚さ参考図



- ・耐久性上有効な仕上げ（タイル張・モルタル塗・外断熱等）を施す場合は、屋外側では上記かぶり厚さを10mm減じることができる。ただし住宅性能評価を取得する建物においては、屋外に面するスラブ・柱天端・梁天端のかぶり厚さは耐久性上有効な仕上げがあっても10mm減じることではない。

鉄骨標準図（１）

2025年3月版

1. 共通事項

1-1 適用範囲

- ・本鉄骨標準図は鉄骨工事に適用する。
- ・構造図面に記載された事項は、本鉄骨標準図に優先して適用する。
- ・構造図面及び構造関係特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成25年版、日本建築学会建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事（2007年版）による。
- ・「特記」とは、構造図面に表記する事項をいう。

1-2 注意事項

- ・詳細が本鉄骨標準図と相違する場合は工事監理者と協議し決定すること。

2. 溶接標準

2-1 開先標準

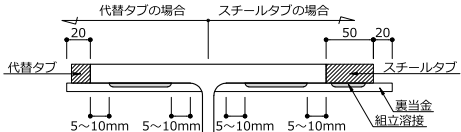
B1		B1(角度を持った場合)	
$t \leq 40$	$t > 40$	$\theta \leq 30^\circ$	
$A < 25 : 0 < S \leq 4$ $25 \leq A : 0 < S \leq (4/25)A$		$25 \leq A : 0 < S \leq (4/25)A$	
B2		B3	
$t \leq 19$	$t > 19$	$t < 32$	
$A < 25 : 0 < S \leq 4$ $25 \leq A : 0 < S \leq (4/25)A$		機械仕上 エンドダイヤフラム () 内は $t \geq 32$ の時	
B4		T1	
$t \leq 19$	$t > 19$	$t < 32$	
$\frac{t}{4} \leq S \leq \frac{t}{4} + 7$		$\frac{t}{4} \leq S \leq \frac{t}{4} + 7$	
T1 (角度を持った場合)			
$45^\circ \leq \theta < 60^\circ$	$60^\circ \leq \theta < 90^\circ$	$75^\circ \leq \theta < 90^\circ$	
自然開先			
T2		T3	
$t \leq 19$	$t > 19$	$t < 32$	
$\frac{t}{4} \leq S \leq \frac{t}{4} + 7$		$\frac{t}{4} \leq S \leq \frac{t}{4} + 7$ () 内は $t \geq 36$ の時	
L1		L2	
$t < 32$	$t \geq 32$	$t < 32$	
$PL-16 \times 16$		$PL-16 \times 16$	

F1		
$t \leq 16$	$t > 16$	
$0 \leq \Delta S \leq \min(0.5S, 5)$		
F1 (角度を持った場合)		
$\theta \geq 60^\circ$	$45^\circ \leq \theta < 60^\circ$	
自然開先		
$S : F1 \text{ と同じ}$		
P1		
$t > 9$	$t \leq 40$	
$t \leq 9 : F1 \text{ と同じ。}$		
P2		
$t > 9$	$t \leq 40$	
$t \leq 9 : F1 \text{ と同じ。}$		
P3		
$t > 9$	$t \leq 40$	
$t \leq 9 : F1 \text{ と同じ。}$		
P4		
$t > 9$	$t \leq 40$	
$t \leq 9 : F1 \text{ と同じ。}$		

- ・ θ の範囲を超える場合は、工事監理者と協議すること。
- ・超音波探傷試験対象範囲は突合せ溶接部（T1,T2,B1,B2,B3,B4）及び工事監理者が必要と判断した箇所とする。

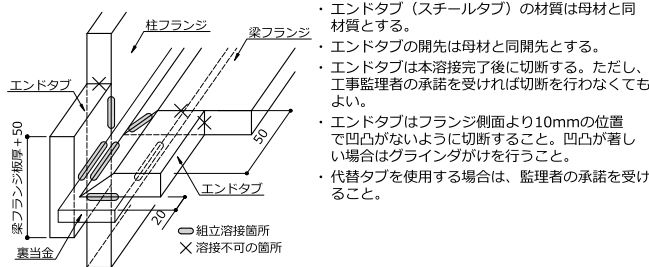
2-2 裏当金

平継手		T継手
段差なし	段差あり	
組立溶接 FB-9x38		組立溶接 FB-9x25



- ・裏当金の材質は母材と同材質またはSN490Bとする。
- ・裏当金は隙間が生じないように加工すること。

2-3 エンドタブ



- ・エンドタブ（スチールタブ）の材質は母材と同材質とする。
- ・エンドタブの開先は母材と同開先とする。
- ・エンドタブは本溶接完了後に切断する。ただし、工事監理者の承諾を受ければ切断を行わなくてもよい。
- ・エンドタブはフランジ側面より10mmの位置で凹凸がないように切断すること。凹凸が著しい場合はグラインダがけを行うこと。
- ・代替タブを使用する場合は、監理者の承諾を受けること。

2-4 組立溶接

- ・組立溶接は原則として本溶接開先内に行ってはならない。裏当金使用以外の突合せ溶接部の組立溶接は必ず裏はつり側に行う。
- ・組立溶接に割れが生じないように、必要で十分な長さで4mm以上の脚長をもつビードとする。
- ・組立溶接のビード長さLは以下とする。
 $t \leq 6 : L \geq 30$
 $t > 6 : L \geq 40$
ただし、板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

2-5 ノンスラップ

	ロールH形鋼	組立H形鋼
梁端部		

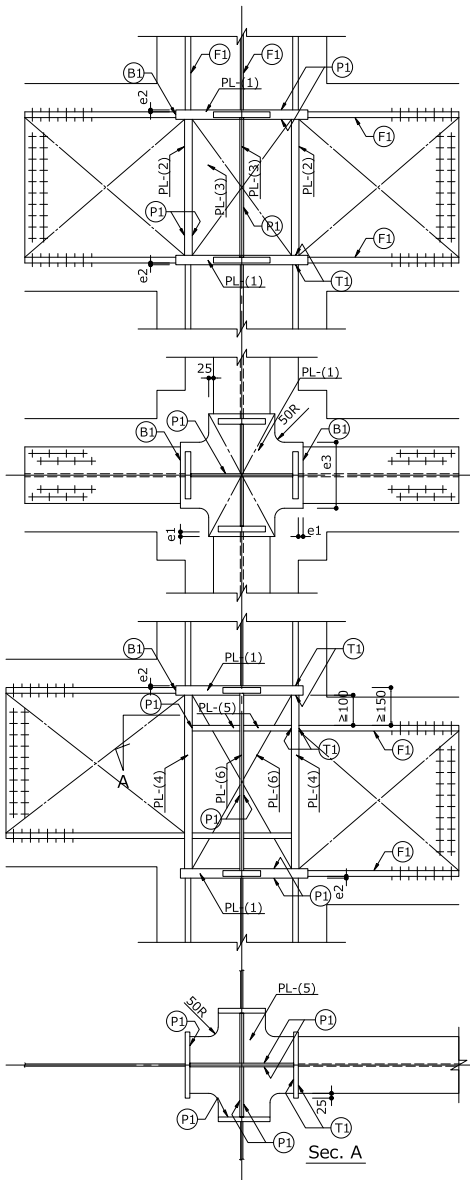
2-6 スラップ

	ロールH形鋼	組立H形鋼
梁端部		
梁中間部		

※ スラップを採用する場合は、監理者の承諾を受けること。

3. 柱・梁接合部標準（ノンスラップ採用）

3-1 S R C造鉄骨



- ・通しダイヤフラム形式を原則とする。
- ・PL-(1) は柱フランジの最大厚以上かつ梁フランジの最大厚が40mm未満の場合は2サイズ上、40mm以上の場合は1サイズ上とする。材質は原則柱と梁フランジの強度の高い方のC材とする。
- ・PL-(2) は柱フランジの最大厚の1サイズ上とし、柱フランジと同材質とする。幅は上下柱フランジの広い方と同じとする。
- ・PL-(3) は柱・梁ウェブのうち最大厚の2サイズ上とし、柱・梁ウェブと同材質とする。
- ・PL-(4) は柱フランジの最大厚の1サイズ上と梁フランジの最大厚の厚い方とし、材質は原則、柱と梁フランジの強度の高い方のB材とする。
- ・PL-(5) は梁フランジの最大厚の1サイズ上とし、梁フランジと同材質とする。
- ・PL-(6) は柱・梁ウェブの最大厚の2サイズ上とし、PL-(5)の2サイズ下の板厚以上とする。材質は柱・梁ウェブと同材質とする。
- ・PL-(2),(3),(4)はX・Y各方向毎に定める。
- ・e1は柱の板厚が40mm以下の場合は25mmとし、40mmを超える場合は特記による。
- ・e2は梁フランジを通しダイヤフラム板厚内におさめるため3mm程度を標準とする。
- ・e3は梁フランジ、柱フランジ及び PL-(4) の最大幅に両側25mmを加えた幅とする。

3-2 プレート板厚サイズ

プレート板厚t (mm)										
6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40

- ・40mmを超える場合は5mm毎とする。

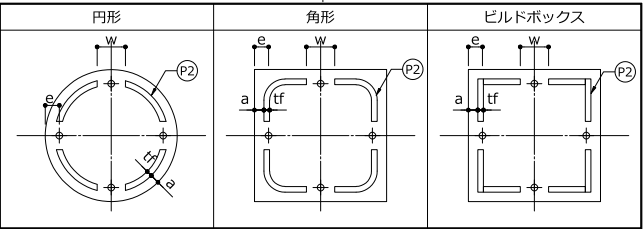
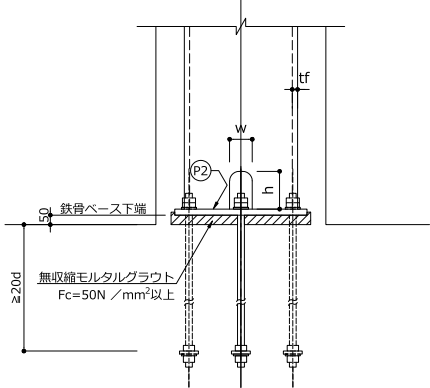
鉄骨標準図（２）

2025年3月版

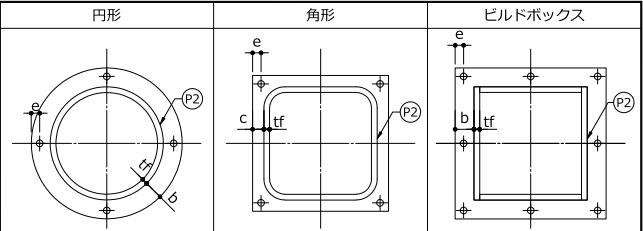
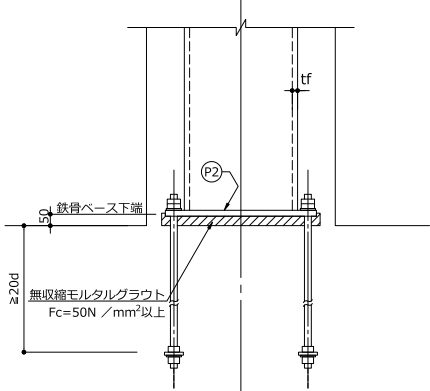
4. 柱脚標準

4-1 冷間成形角形鋼管・円形鋼管・ビルドボックス

1) 埋込柱脚・根巻柱脚- (Type A)



2) 埋込柱脚・根巻柱脚- (Type B)

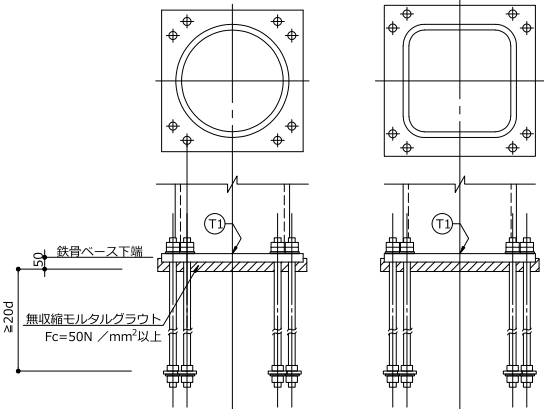


tf 板厚	a 縁あき	b 縁あき	c 縁あき
tf ≤ 19	25	80	40
19 < tf ≤ 28	35	90	50
28 < tf ≤ 40	50	100	60

ボルト径 (d)	e ボルト芯	w 幅	h 高さ
M16 ~ M24	35	120	160
M27 ~ M30	40	135	180
M33 ~ M36	50	150	200
M39 ~ M48	4d/3以上	165	220

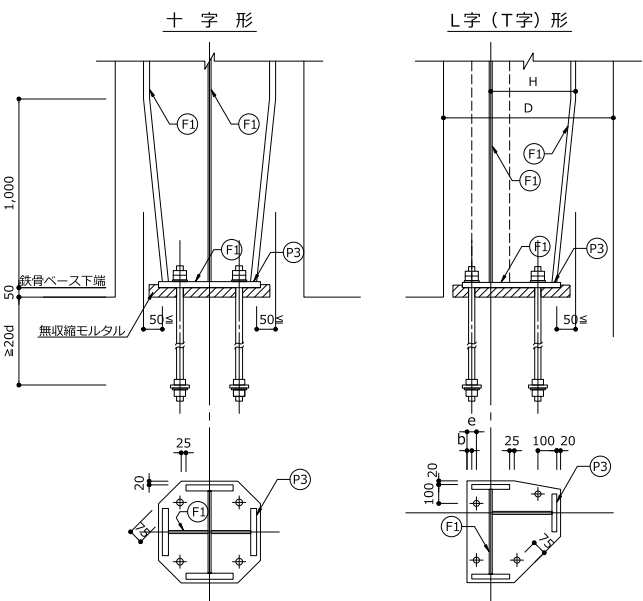
- ・ベースプレートの材質はB材を標準とする。
- ・柱とベースプレートの溶接 (P2) は (T1) でも可とする。
- ・アンカーボルトは、フック付きも可とする。

4-2 露出柱脚



- ・露出型弾性固定柱脚の仕様はメーカーの規定による。
- ・アンカーボルト及びベースプレートは部材リストによる。
- ・ベースプレートの材質はC材を標準とする。

4-3 SRC造鉄骨



フランジ幅	b 縁あき	e ボルト芯
≤ 200	50	50
> 200	25	75

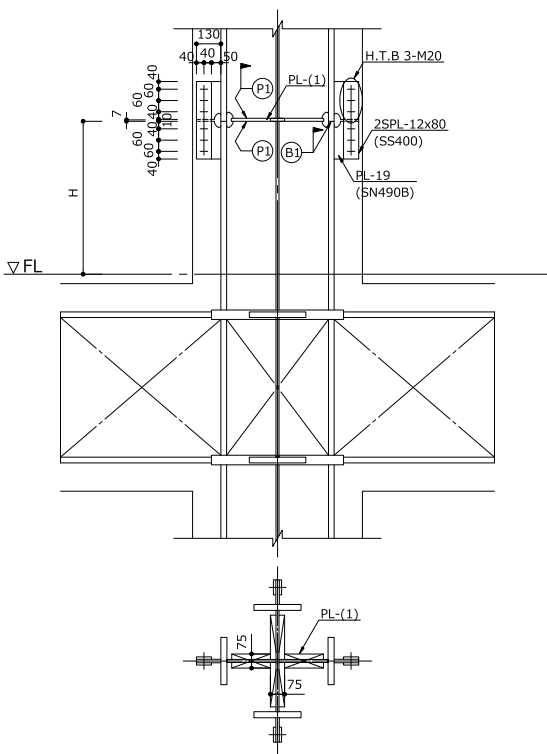
4-4 アンカーボルト

- ・柱のアンカーボルトは建方用アンカーフレームを用いて保持すること。
- ・柱のアンカーボルトが建方用の場合はサブアンカーの使用を可とする。ただし工事監理者の承諾を受けること。
- ・アンカーボルトに用いる定着板は下記以上とする。定着板の材質はSS400とする。
- ・アンカーボルト孔径はボルト径+5mm以下とする。

定着板 形状	円形			正方形		
	D 外径	d 内径	厚さ	D 外形	d 内径	厚さ
ボルト径						
M16	48	18	10	50	18	9
M20	60	22	13	60	22	12
M22	72	26	15	70	24	12
M24	72	26	15	75	26	16
M27	91	32	17	90	29	16
M30	91	32	17	100	32	16
M33	102	38	20	100	35	19
M36	102	38	20	110	38	19
M39	120	45	24	120	41	22
M42	120	45	24	120	44	22
M45	140	51	24	125	48	22
M48	140	51	24	150	51	22

5. 柱継手標準

5-1 SRC造鉄骨

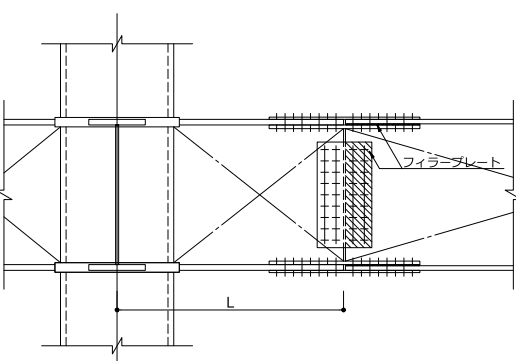


- ・SRC柱の柱フランジが28mm以下の場合はボルト接合とし、28mmを超える場合は溶接接合とする。
- ・SRC柱のウェブ継手は溶接接合とする。
- ・PL-(1)は下記とし材質は原則ウェブと同強度のC材とする。
tw ≤ 25 PL-16x75
tw > 25 PL- (ウェブの2サイズ下) x75

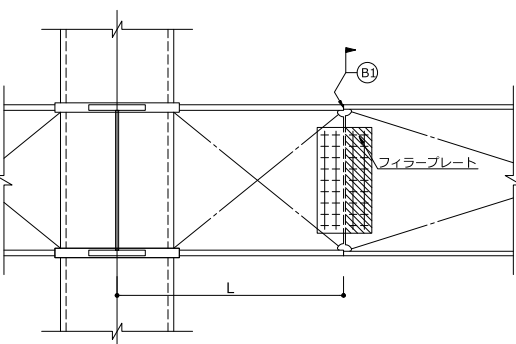
6. 梁継手標準

6-1 ブラケットタイプ

1) ボルト接合

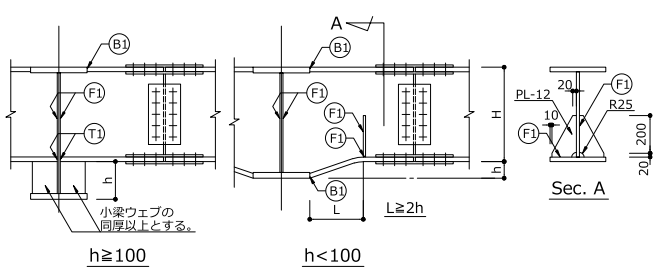


2) 溶接接合

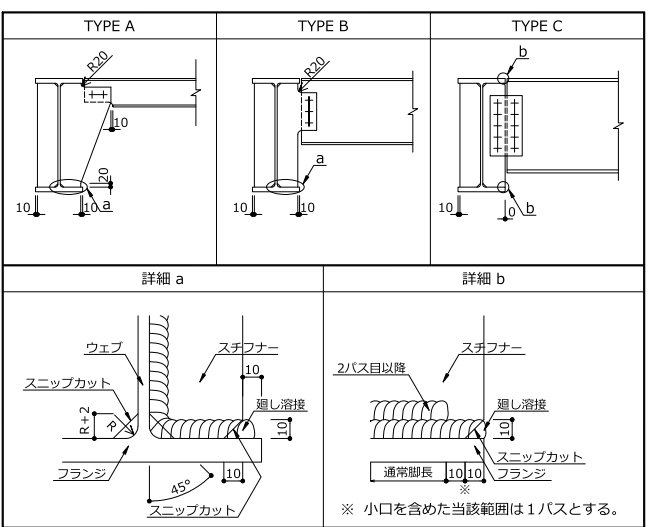


- ・1mmを超える肌すきが生じる場合はフィラープレートを挿入すること。またフィラープレートの材質はSS400とする。
- ・中央梁フランジが28mm以下の場合はボルト接合とし、28mmを超える場合は溶接接合とする。

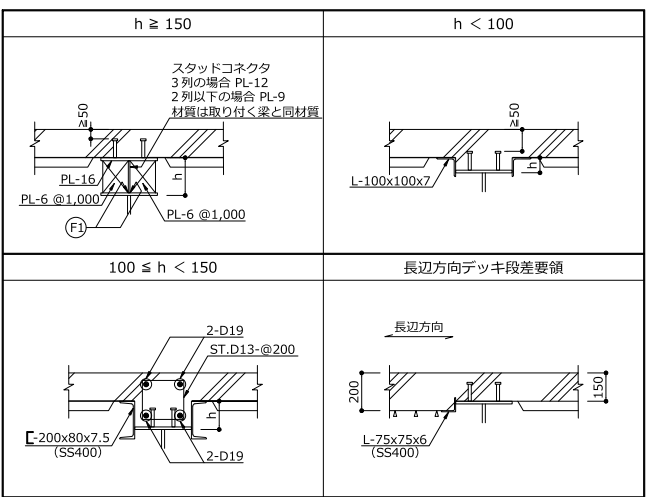
6-2 梁剛接合



6-3 ピン接合

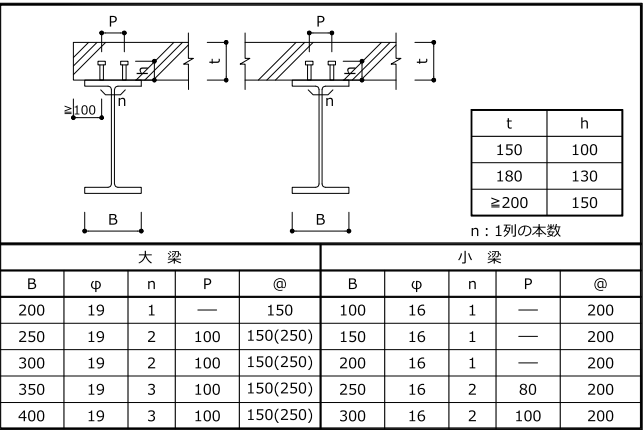


6-4 梁上かさ上げ要領



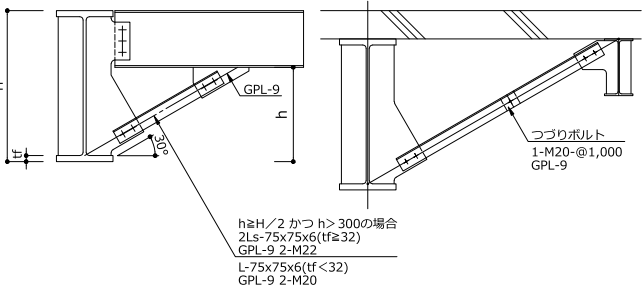
7. 梁加工標準

7-1 スタッドコネクター取合要領



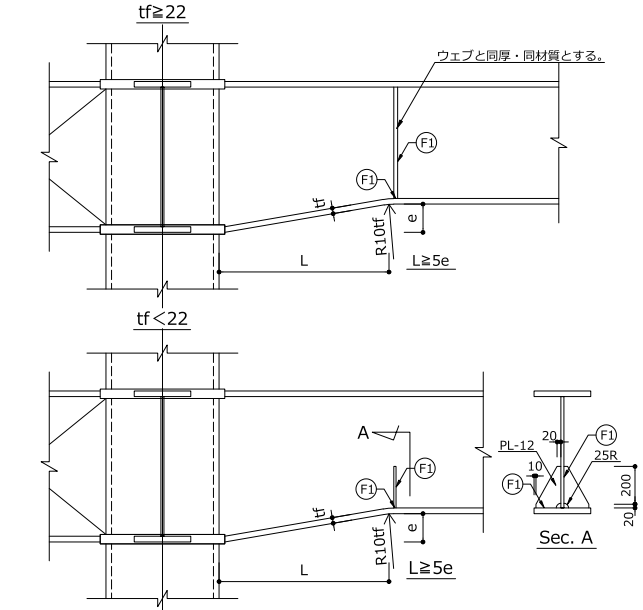
- ・ () 付きはスパン10m以上の場合に適用する。
- ・ 頭付きスタッドのピッチ（梁の材軸方向の間隔）は、軸径の7.5倍以上、かつ、600mm以下とする。
- ・ 頭付きスタッドのゲージ（梁の材軸と直角方向の間隔）は、軸径の5倍以上とする。
- ・ フランジ縁と頭付きスタッドの軸心との距離は、40mm以上とする。
- ・ 大梁の床スラブの縁辺から頭付きスタッドの軸心までの距離は、100mm以上とする。
- ・ 頭付きスタッドのコンクリートかぶり厚さは、あらゆる方向について、30mm以上とする。ただし、デッキプレートの薄幅によって制限される場合は除く。
- ・ ウェブ直上に溶接される場合を除き、溶接する頭付きスタッドの軸径は、フランジ板厚の2.5倍以下とする。
- ・ 合成スラブ用デッキプレートを使用する場合、頭付きスタッドの長さはデッキ高さに30mmを加えたもの以上とする。
- ・ 合成デッキ、1方向デッキで小梁の上をデッキが渡る場合は、スタッドのピッチをデッキの山のピッチに合わせてよいこととする。

7-2 座屈止め



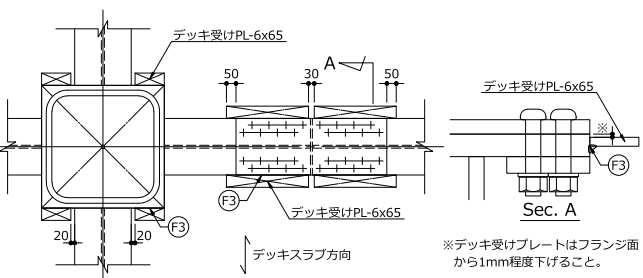
- ・ 座屈止めの設置は特記による。

7-3 ハンチ要領

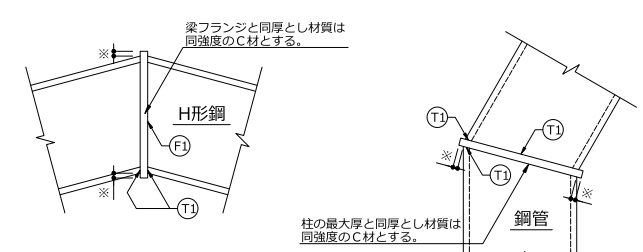


8. その他の加工標準

8-1 デッキプレート受け

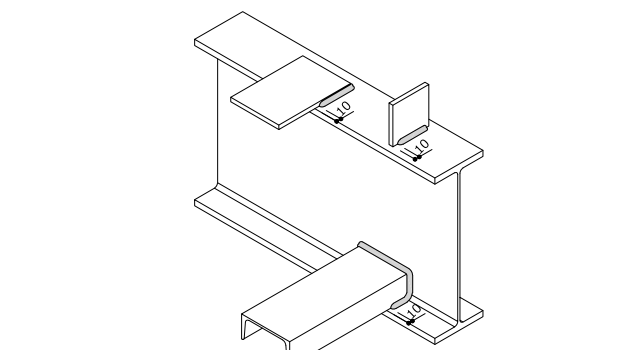


8-2 柱梁折曲要領



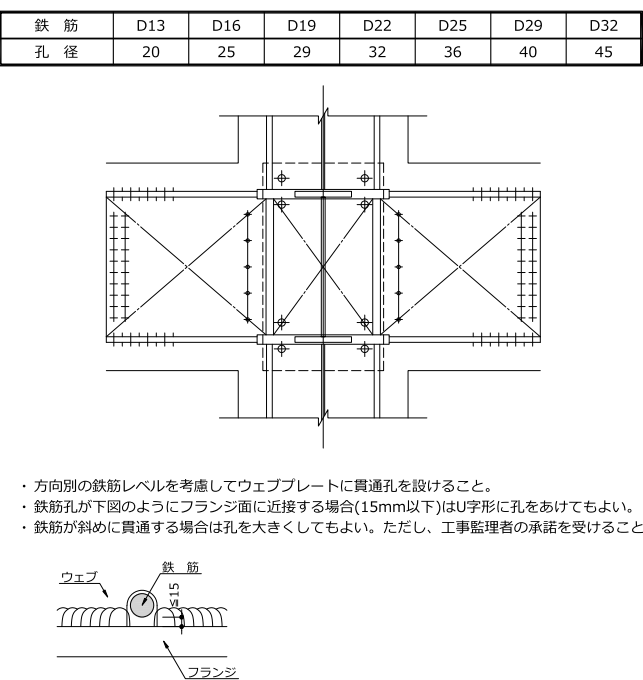
- ・ ※は25mmを標準とし、詳細寸法は原寸図又は工作図等で決定のこと。

8-3 仕上材等の取付プレート



- ・ 仕上の取付プレートの溶接は原則工場溶接とし、母材を痛めないように注意すること。
- ・ 廻し溶接が不要な部分は小口面から10mm手前で溶接を止めること。

8-4 鉄筋貫通孔

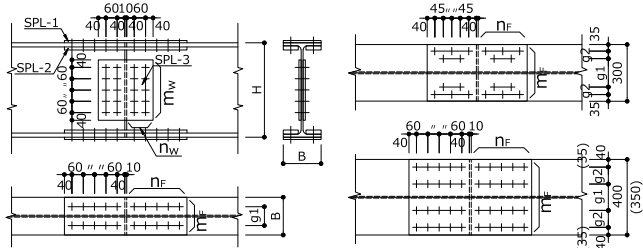


鉄骨標準図（４）

2025年3月版

9. ボルト継手標準

9-1 H形梁剛接合（SN490級／F10T・S10T）



フ ラ ン ジ							
B	FPL	H.T.B.	nf x mf	g1	g2	SPL-1	2SPL-2
200	16	M20	4 x 2	120	—	12 x 200 x 530	12 x 80 x 530
	19	"	5 x 2	"	—	16 x 200 x 650	16 x 80 x 650
	22	"	5 x 2	"	—	16 x 200 x 650	16 x 80 x 650
	25	"	6 x 2	"	—	16 x 200 x 770	19 x 80 x 770
	28	"	6 x 2	"	—	19 x 200 x 770	19 x 80 x 770
250	19	M22	5 x 2	150	—	16 x 250 x 650	16 x 100 x 650
	22	"	5 x 2	"	—	16 x 250 x 770	19 x 100 x 770
	25	"	6 x 2	"	—	19 x 250 x 770	19 x 100 x 770
	28	"	7 x 2	"	—	19 x 250 x 890	22 x 100 x 890
300	22	M22	7 x 2	150	40	16 x 300 x 710	19 x 110 x 710
	25	"	7 x 2	"	"	19 x 300 x 710	19 x 110 x 710
	28	"	8 x 2	"	"	19 x 300 x 800	22 x 110 x 800
350	25	M22	5 x 4	140	70	19 x 350 x 650	22 x 140 x 650
	28	"	5 x 4	"	"	22 x 350 x 650	25 x 140 x 650
400	25	M22	6 x 4	140	90	22 x 400 x 770	22 x 170 x 770
	28	"	7 x 4	"	"	25 x 400 x 890	25 x 170 x 890

ウ ェ ブ				
H	WPL	H.T.B.	mw X nw	2SPL-3
400	9	M22	4 x 2	9 x 260 x 290
	12	"	"	12 x 260 x 290
450	9	M22	5 x 2	9 x 320 x 290
500	12	"	"	12 x 320 x 290
550	9	M22	6 x 2	9 x 380 x 290
	12	"	"	12 x 380 x 290
600	14・16	"	"	16 x 380 x 290
	14・16	"	"	16 x 380 x 290
650	9	M22	7 x 2	9 x 440 x 290
	12	"	"	12 x 440 x 290
	14・16	"	"	16 x 440 x 290
700	9	M22	8 x 2	9 x 500 x 290
	12	"	"	12 x 500 x 290
	14・16	"	"	16 x 500 x 290
750	9	M22	9 x 2	9 x 560 x 290
	12	"	"	12 x 560 x 290
	14・16	"	"	16 x 560 x 290
800	9	M22	10 x 2	9 x 620 x 290
	12	"	"	12 x 620 x 290
	14・16	"	"	16 x 620 x 290
850	9	M22	11 x 2	9 x 680 x 290
	12	"	"	12 x 680 x 290
	14・16	"	"	16 x 680 x 290
900	9	M22	12 x 2	9 x 740 x 290
	12	"	"	12 x 740 x 290
	14・16	"	"	16 x 740 x 290
950	9	M22	13 x 2	9 x 800 x 290
	12	"	"	12 x 800 x 290
	14・16	"	"	16 x 800 x 290
1,000	9	M22	14 x 2	9 x 860 x 290
	12	"	"	12 x 860 x 290
	14・16	"	"	16 x 860 x 290
1,000	19	"	"	19 x 860 x 290

- ・ フランジ幅が200のウェブ継手のボルトはM22をM20とする。
- ・ 柱のフランジ継手も上記にならう。
- ・ めっき部材については適用しないこと。
- ・ SPLは母材と同強度とする。
- ・ 中央梁フランジが28mm以下の場合はボルト接合とし、28mmを超える場合は溶接接合とする。
- ・ ボルト本数は中央材の板厚による。

9-2 H形梁剛接合（SN400級／F10T・S10T）

フ ラ ン ジ							
B	FPL	H.T.B.	nf x mf	g1	g2	SPL-1	2SPL-2
200	16	M20	3 x 2	120	—	12 x 200 x 410	12 x 80 x 410
	19	"	4 x 2	"	—	16 x 200 x 530	16 x 80 x 530
	22	"	4 x 2	"	—	16 x 200 x 530	16 x 80 x 530
	25	"	4 x 2	"	—	16 x 200 x 530	19 x 80 x 530
	28	"	5 x 2	"	—	19 x 200 x 650	19 x 80 x 650
250	19	M22	4 x 2	150	—	16 x 250 x 530	16 x 100 x 530
	22	"	4 x 2	"	—	16 x 250 x 530	19 x 100 x 530
	25	"	5 x 2	"	—	19 x 250 x 650	19 x 100 x 650
	28	"	5 x 2	"	—	19 x 250 x 650	22 x 100 x 650
	28	"	6 x 2	"	"	19 x 300 x 620	22 x 110 x 620
350	25	M22	4 x 4	140	70	22 x 350 x 530	22 x 140 x 530
	28	"	4 x 4	"	"	22 x 350 x 530	25 x 140 x 530
400	25	M22	4 x 4	140	90	19 x 400 x 530	19 x 170 x 530
	28	"	4 x 4	"	"	22 x 400 x 530	22 x 170 x 530

ウ ェ ブ				
H	WPL	H.T.B.	mw X nw	2SPL-3
400	9	M22	4 x 2	9 x 260 x 290
	12	"	"	12 x 260 x 290
450	9	M22	5 x 2	9 x 320 x 290
500	12	"	"	12 x 320 x 290
550	9	M22	6 x 2	9 x 380 x 290
600	12	"	"	12 x 380 x 290
	14・16	"	"	16 x 380 x 290
650	9	M22	7 x 2	9 x 440 x 290
	12	"	"	12 x 440 x 290
	14・16	"	"	16 x 440 x 290
700	9	M22	8 x 2	9 x 500 x 290
	12	"	"	12 x 500 x 290
	14・16	"	"	16 x 500 x 290
750	9	M22	9 x 2	9 x 560 x 290
	12	"	"	12 x 560 x 290
	14・16	"	"	16 x 560 x 290
800	9	M22	10 x 2	9 x 620 x 290
	12	"	"	12 x 620 x 290
	14・16	"	"	16 x 620 x 290
850	9	M22	11 x 2	9 x 680 x 290
	12	"	"	12 x 680 x 290
	14・16	"	"	16 x 680 x 290
900	9	M22	12 x 2	9 x 740 x 290
	12	"	"	12 x 740 x 290
	14・16	"	"	16 x 740 x 290
950	9	M22	13 x 2	9 x 800 x 290
	12	"	"	12 x 800 x 290
	14・16	"	"	16 x 800 x 290
1,000	9	M22	14 x 2	9 x 860 x 290
	12	"	"	12 x 860 x 290
	14・16	"	"	16 x 860 x 290
1,000	19	"	"	19 x 860 x 290

- ・ フランジ幅が200のウェブ継手のボルトはM22をM20とする。
- ・ 柱のフランジ継手も上記にならう。
- ・ めっき部材については適用しないこと。
- ・ SPLは母材と同強度とする。
- ・ 中央梁フランジが28mm以下の場合はボルト接合とし、28mmを超える場合は溶接接合とする。
- ・ ボルト本数は中央材の板厚による。

9-3 H形梁剛接合（SN400級／F10T・S10T）

部 材	H.T.B.	フランジ		ウェブ		
		nf x mf	SPL-1	mwXnw	P	2SPL-3
			2SPL-2			
H-300x150x6.5x9	M20	2 x 2	9 x 150 x 290 9 x 60 x 290	2 x 1	120	6 x 200 x 170
H-350x175x7x11	M20	2 x 2	9 x 175 x 290 9 x 70 x 290	3 x 1	90	6 x 260 x 170
H-400x200x8x13	M20	3 x 2	9 x 200 x 410 9 x 80 x 410	4 x 1	60	9 x 260 x 170
H-450x200x9x14	M20	3 x 2	12 x 200 x 410 12 x 80 x 410	5 x 1	60	9 x 320 x 170
H-500x200x10x16	M20	3 x 2	12 x 200 x 410 12 x 80 x 410	5 x 1	60	9 x 320 x 170
H-600x200x11x17	M20	3 x 2	12 x 200 x 410 12 x 80 x 410	4 x 2	120	9 x 440 x 290
H-194x150x6x9	M20	2 x 2	9 x 150 x 290 9 x 60 x 290	2 x 1	※60	6 x 140 x 230
H-244x175x7x11	M20	2 x 2	9 x 175 x 290 9 x 70 x 290	2 x 1	60	9 x 140 x 170
H-294x200x8x12	M20	3 x 2	9 x 200 x 410 9 x 80 x 410	3 x 1	60	9 x 200 x 170
H-340x250x9x14	M20	4 x 2	12 x 250 x 530 12 x 100 x 530	3 x 2	60	9 x 200 x 290
H-390x300x10x16	M20	4 x 2	12 x 300 x 440 12 x 110 x 440	4 x 1	60	9 x 260 x 170
H-440x300x11x18	M20	4 x 2	12 x 300 x 440 12 x 110 x 440	5 x 1	60	9 x 320 x 170
H-488x300x11x18	M20	4 x 2	12 x 300 x 440 12 x 110 x 440	4 x 2	90	12 x 350 x 290
H-588x300x12x20	M20	5 x 2	12 x 300 x 530 16 x 110 x 530	4 x 2	120	9 x 440 x 290
H-700x300x13x24	M20	6 x 2	19 x 300 x 620 19 x 110 x 620	9 x 1	60	9 x 560 x 170
H-150x150x7x10	M20	2 x 2	9 x 150 x 290 9 x 60 x 290	1 x 2	60	9 x 80 x 290
H-175x175x7.5x11	M20	2 x 2	9 x 175 x 290 9 x 70 x 290	1 x 2	60	9 x 80 x 290
H-200x200x8x12	M20	2 x 2	9 x 200 x 290 9 x 80 x 290	2 x 1	※60	6 x 140 x 230
H-250x250x9x14	M20	4 x 2	12 x 250 x 530 12 x 100 x 530	2 x 2	60	9 x 140 x 290
H-300x300x10x15	M20	4 x 2	9 x 300 x 440 12 x 110 x 440	2 x 2	120	9 x 200 x 290
H-350x350x12x19	M20	3 x 4	12 x 350 x 410 12 x 140 x 410	3 x 2	60	12 x 200 x 290
H-400x400x13x21	M20	3 x 4	12 x 400 x 410 16 x 170 x 410	4 x 2	60	12 x 260 x 290

- ・ SPLは母材と同強度とする。
- ・ Pはウェブの部材せい方向のボルトピッチとする。
- ・ ※印の継手はフランジのボルトと干渉しないように、ウェブのボルトを外側に半ピッチ（30mm）ずらすこと。

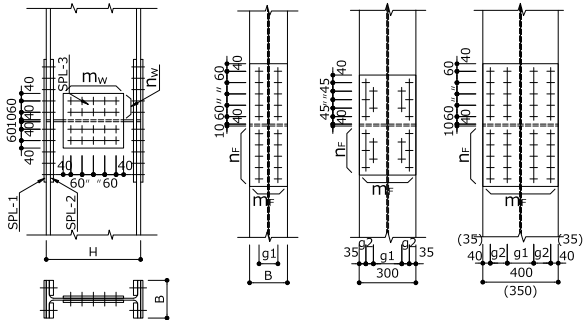
9-4 H形梁剛接合（SN400級／F8T）

部 材	H.T.B.	フランジ			ウェブ		
		H _F x M _F	SPL-1	M _{FW} x N _{FW}	P	2SPL-3	
			2SPL-2				
H-300x150x6.5x9	M20	2 x 2	9 x 150 x 290 9 x 60 x 290	2 x 2	120	6 x 200 x 290	
H-350x175x7x11	M20	2 x 2	9 x 175 x 290 9 x 70 x 290	3 x 1	90	6 x 260 x 170	
H-400x200x8x13	M20	3 x 2	9 x 200 x 410 9 x 80 x 410	3 x 2	90	9 x 260 x 290	
H-450x200x9x14	M20	3 x 2	9 x 200 x 410 12 x 80 x 410	3 x 2	120	9 x 320 x 290	
H-500x200x10x16	M20	4 x 2	12 x 200 x 530 12 x 80 x 530	4 x 2	90	9 x 350 x 290	
H-600x200x11x17	M20	4 x 2	12 x 200 x 530 12 x 80 x 530	5 x 2	90	9 x 440 x 290	
H-194x150x6x9	M20	2 x 2	9 x 150 x 290 9 x 60 x 290	2 x 1	※60	6 x 140 x 230	
H-244x175x7x11	M20	2 x 2	9 x 175 x 290 9 x 70 x 290	2 x 2	60	9 x 140 x 290	
H-294x200x8x12	M20	3 x 2	9 x 200 x 410 9 x 80 x 410	3 x 1	60	9 x 200 x 170	
H-340x250x9x14	M20	4 x 2	9 x 250 x 530 9 x 100 x 530	3 x 2	60	9 x 200 x 290	
H-390x300x10x16	M20	5 x 2	9 x 300 x 530 12 x 110 x 530	3 x 2	90	9 x 260 x 290	
H-440x300x11x18	M20	6 x 2	12 x 300 x 620 12 x 110 x 620	5 x 2	60	9 x 320 x 290	
H-488x300x11x18	M20	6 x 2	12 x 300 x 620 12 x 110 x 620	4 x 2	90	9 x 350 x 290	
H-588x300x12x20	M20	6 x 2	12 x 300 x 620 16 x 110 x 620	5 x 2	90	9 x 440 x 290	
H-700x300x13x24	M20	8 x 2	16 x 300 x 800 19 x 110 x 800	6 x 2	90	12 x 530 x 290	
H-150x150x7x10	M20	2 x 2	9 x 150 x 290 9 x 60 x 290	1 x 2	60	9 x 80 x 290	
H-175x175x7.5x11	M20	2 x 2	9 x 175 x 290 9 x 70 x 290	1 x 3	60	9 x 80 x 410	
H-200x200x8x12	M20	3 x 2	9 x 200 x 410 9 x 80 x 410	2 x 2	※60	6 x 140 x 350	
H-250x250x9x14	M20	4 x 2	9 x 250 x 530 9 x 100 x 530	2 x 2	60	9 x 140 x 290	
H-300x300x10x15	M20	5 x 2	9 x 300 x 530 12 x 110 x 530	3 x 2	60	9 x 200 x 290	
H-350x350x12x19	M20	3 x 4	12 x 350 x 410 12 x 140 x 410	3 x 3	60	12 x 200 x 410	
H-400x400x13x21	M20	4 x 4	12 x 400 x 530 16 x 170 x 530	4 x 2	60	12 x 260 x 290	

鉄骨標準図（５）

2025年3月版

9－5 H形剛柱剛接合（SN400級・SN490級／F10T・S10T）



1) SN400

部 材	H.T.B.	n _F ×m _F	フランジ		ウェブ	
			SPL-1 2SPL-2	n _W ×m _W	P	2SPL-3
H-194x150x6x9	M20	2×2	9×150×290 9×60×290	2×1	※60	6×140×230
H-244x175x7x11	M20	2×2	9×175×290 9×70×290	2×2	60	9×140×290
H-294x200x8x12	M20	3×2	9×200×410 9×80×410	3×1	60	9×200×170
H-340x250x9x14	M20	4×2	12×250×530 12×100×530	3×2	60	12×200×290
H-390x300x10x16	M20	4×2	12×300×440 12×110×440	3×2	90	9×260×290
H-150x150x7x10	M20	2×2	9×150×290 9×60×290	1×2	60	9×80×290
H-175x175x7.5x11	M20	2×2	9×175×290 9×70×290	1×2	60	9×80×290
H-200x200x8x12	M20	2×2	9×200×290 9×80×290	2×1	※60	6×140×230
H-250x250x9x14	M20	2×2	12×250×530 12×100×530	2×2	60	9×140×290
H-300x300x10x15	M20	4×2	9×300×440 12×110×440	2×2	120	9×200×290
H-350x350x12x19	M20	3×4	12×350×410 12×140×410	3×4	60	12×200×290
H-400x400x13x21	M20	3×4	12×300×410 16×170×410	4×2	60	12×260×290

- ・SPLは母材と同強度とする。
- ・Pはウェブの部材正方向のボルトピッチとする。
- ・※印の継手はフランジのボルトと干渉しないように、ウェブのボルトを外側に半ピッチ（30mm）ずらすこと。

2) SN490

部 材	H.T.B.	n _F ×m _F	フランジ		ウェブ	
			SPL-1 2SPL-2	n _W ×m _W	P	2SPL-3
H-440x300x11x18	M22	5×2	12×300×530 12×110×530	5×2	60	9×320×290
H-488x300x11x18	M22	5×2	12×300×530 12×110×530	5×2	60	12×320×290
H-588x300x12x20	M22	5×2	12×300×530 16×110×530	5×2	90	9×440×290
H-700x300x13x24	M22	7×2	19×300×710 19×110×710	7×2	60	16×440×290
H-800x300x14x26	M22	7×2	19×300×710 19×110×710	8×2	60	16×500×290
H-900x300x16x28	M22	8×2	19×300×800 22×110×800	9×2	60	16×560×290

- ・SPLは母材と同強度とする。
- ・Pはウェブの部材正方向のボルトピッチとする。

9－6 H形剛柱剛接合（SN400級・SN490級／F8T）
1) SN400

部 材	H.T.B.	n _F ×m _F	フランジ		ウェブ	
			SPL-1 2SPL-2	n _W ×m _W	P	2SPL-3
H-194x150x6x9	M20	2×2	9×150×290 9×60×290	2×1	※60	6×140×230
H-244x175x7x11	M20	2×2	9×175×290 9×70×290	2×2	60	9×140×290
H-294x200x8x12	M20	3×2	9×200×410 9×80×410	3×2	60	9×200×290
H-340x250x9x14	M20	4×2	9×250×530 9×100×530	3×2	60	9×200×290
H-390x300x10x16	M20	5×2	12×300×530 12×110×530	4×2	60	9×260×290
H-150x150x7x10	M20	2×2	9×150×290 9×60×290	1×2	60	9×80×290
H-175x175x7.5x11	M20	2×2	9×175×290 9×70×290	1×3	60	9×80×410
H-200x200x8x12	M20	3×2	9×200×290 9×80×290	2×2	※60	6×140×350
H-250x250x9x14	M20	4×2	9×250×530 9×100×530	2×2	60	9×140×290
H-300x300x10x15	M20	5×2	9×300×530 12×110×530	3×2	60	9×200×290
H-350x350x12x19	M20	3×4	12×350×410 12×140×410	3×3	60	12×200×410
H-400x400x13x21	M20	4×4	12×300×530 16×170×530	4×2	60	12×260×290

- SPLは母材と同強度とする。
- Pはウェブの部材正方向のボルトピッチとする。
- ※印の継手はフランジのボルトと干渉しないように、ウェブのボルトを外側に半ピッチ（30mm）ずらすこと。

2) SN490

部 材	H.T.B.	n _F ×m _F	フランジ		ウェブ	
			SPL-1 2SPL-2	n _W ×m _W	P	2SPL-3
H-440x300x11x18	M22	6×2	12×300×620 12×110×620	5×2	60	9×320×290
H-488x300x11x18	M22	6×2	12×300×620 12×110×620	6×2	60	9×380×290
H-588x300x12x20	M22	7×2	12×300×710 16×110×710	7×2	60	12×440×290
H-700x300x13x24	M22	8×2	16×300×800 19×110×800	8×2	60	12×500×290
H-800x300x14x26	M22	9×2	19×300×890 19×110×890	10×2	60	12×620×290
H-900x300x16x28	M22	10×2	19×300×980 22×110×980	12×2	60	12×740×290

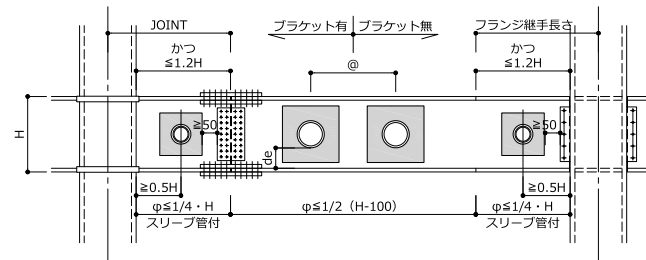
- SPLは母材と同強度とする。
- Pはウェブの部材正方向のボルトピッチとする。

1 0．梁貫通孔補強要領

1 0－1 梁貫通孔の制限

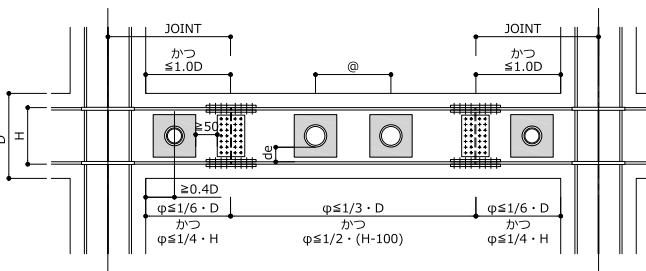
1）鉄骨造（S造）

孔径（φ）		中央部間隔（@）		上下位置 限度	スリーブ管 の有無
端部（1.2H）	中央部	φ≤200	200<φ<300	φ≥300	
φ≤1/4・H （1箇所）	φ≤1/2・（H-100）	@≥3・φ+100	@=700mm	@≥2・φ+100	de≥120mm 端部範囲 のみ

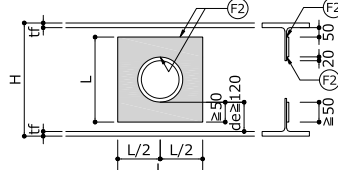


2）鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）

孔径（φ）		中央部間隔 （@）	上下位置 限度	スリーブ管 の有無
端部（1.0D）	中央部			
φ≤1/6・Dかつφ≤1/4・H （1箇所）	φ≤1/3・Dかつφ≤1/2・（H-100）	@≥3・φ	φ≤1/4・H	de≥120mm 全範囲



1 0－2 補強プレート形状



L=min（3φ,H-2tf-100）

H	φ	WPL				
		9	12	14	16	19
300	100	2PL- 9	2PL-12	—	—	—
	100	PL- 6	PL- 9	—	—	—
400	150	2PL- 9	2PL-12	—	—	—
	100	PL- 6	PL- 9	PL- 9	—	—
500	150	2PL- 6	2PL- 9	2PL- 9	—	—
	200	2PL-12	2PL-16	2PL-19	—	—
600	100	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	—
	150	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12	—
	200	2PL- 6	2PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	—
700	250	2PL- 9	2PL-12	2PL-14	2PL-16	—
	100	○	○	○	○	—
	150	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	—
800	200	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12	—
	250	2PL- 6	2PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	—
	300	2PL- 9	2PL-12	2PL-12	2PL-14	—
800	100	○	○	○	○	○
	150	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
	200	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
	250	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-14	PL-16
	300	2PL- 6	2PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	2PL-12
800	350	2PL- 9	2PL-12	2PL-12	2PL-14	2PL-16

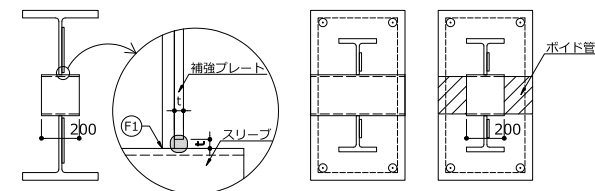
H	φ	WPL				
		9	12	14	16	19
900	100	○	○	○	○	○
	150	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
	200	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
	250	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
	300	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-14	PL-16
	350	2PL- 6	2PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	2PL-12
1,000	400	2PL- 6	2PL- 9	2PL-12	2PL-12	2PL-14
	100	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○
	200	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL- 9	PL-12
	250	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL- 9	PL-12
	300	PL- 6	PL- 9	PL- 9	PL-12	PL-12
1,000	350	PL- 9	PL-12	PL-12	PL-14	PL-16
	400	2PL- 6	2PL- 9	2PL- 9	2PL- 9	2PL-12
	450	2PL- 9	2PL- 9	2PL-12	2PL-12	2PL-14

- ・○印は補強不要、-印はスリーブ不可とする。
- ・鉄骨材質は梁ウェブと同材質とする。
- ・中間値の孔径の補強プレートは大きい径と同一とする。
- ・中間値の梁成の補強プレートは小さい成と同一とする。
- ・孔径が50mm以下は補強を不要とする。
- ・補強プレート端部はウェブスブライスプレート端部と50mm以上離すこと。
- ・スリーブ管付きの場合の補強プレート形状を算出する孔径は呼び径とする。
- ・補強プレートの左右方向の中心は孔中心と合わせること。
- ・補強プレートの上下方向の中心は孔中心と合わせることを原則とし、上下位置限度までの移動を許容する。
- ・孔上下の補強プレート幅が50mm以下となる場合はプレート形状をU形とすることができる。ただし、工事監理者の承諾を受けること。
- ・小梁は補強プレートを不要とする。
- ・孔径が異なる場合の間隔の基準となる径は両方の平均値とする。
- ・小梁スリーブの孔径と間隔は中央部と同一とする。
- ・中央スリーブの柱端側への水平方向の位置は、スリーブの孔が端部の範囲にかからないこと。
- ・PL-12は2PL-6、PL-14,PL-16は2PL-9に変更も可とする。
- ・スリーブが並列する場合は原則、補強プレートは交互の面に配置する。

1 0－3 スリーブ管

鉄骨造（S造）

鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）



- ・S造端部で補強プレートが不要な場合でもスリーブ管を設けること。

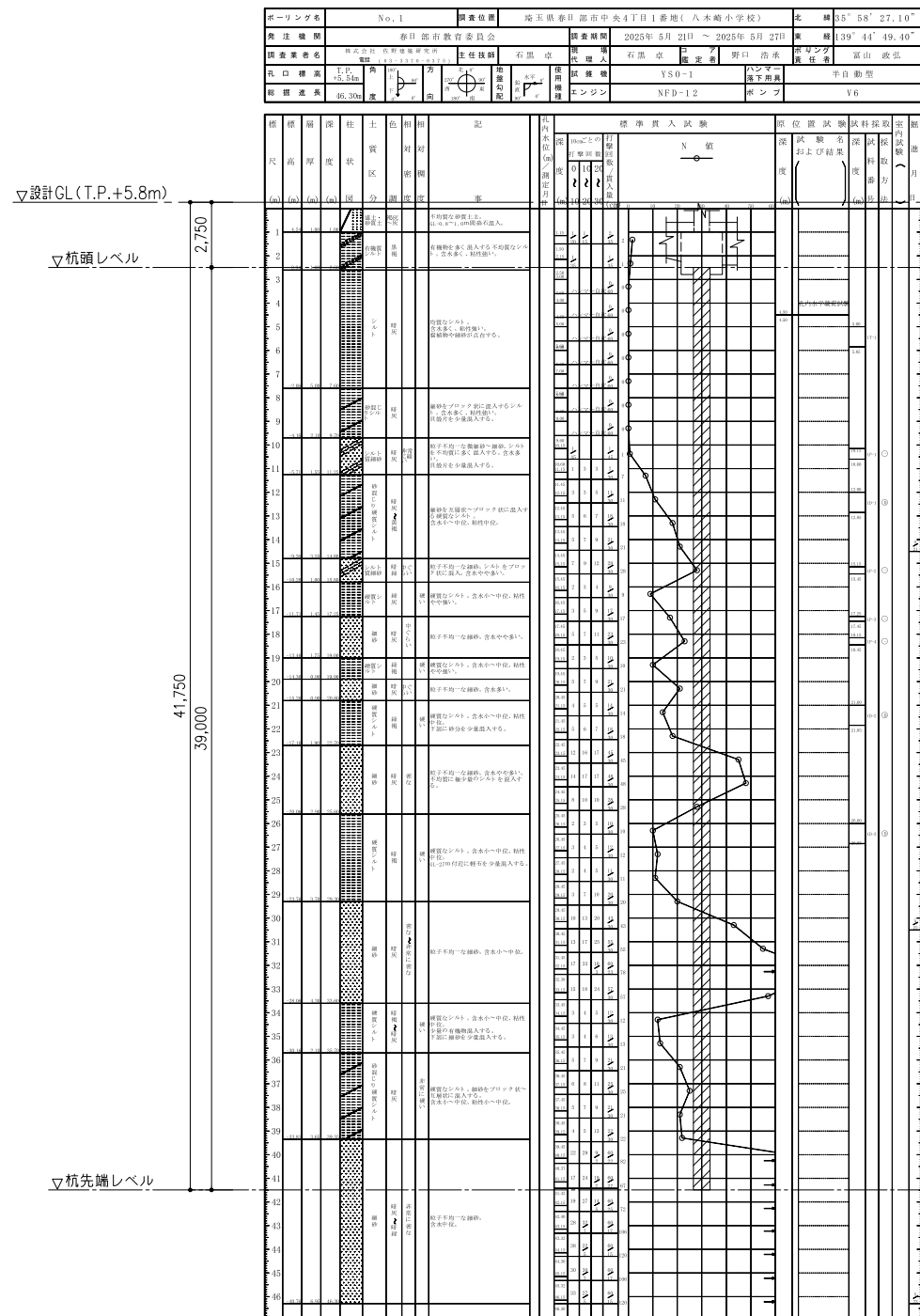
スリーブ呼び径	使用鋼管（STK400）	スリーブ呼び径	使用鋼管（STK400）
100	φ - 114.3 × 3.5	300	φ - 318.5 × 6.0
130	φ - 139.8 × 3.5	350	φ - 355.6 × 6.4
150	φ - 165.2 × 3.8	400	φ - 406.4 × 6.4
200	φ - 216.3 × 4.5	450	φ - 457.2 × 6.4
250	φ - 267.4 × 6.0		

1 0－4 その他

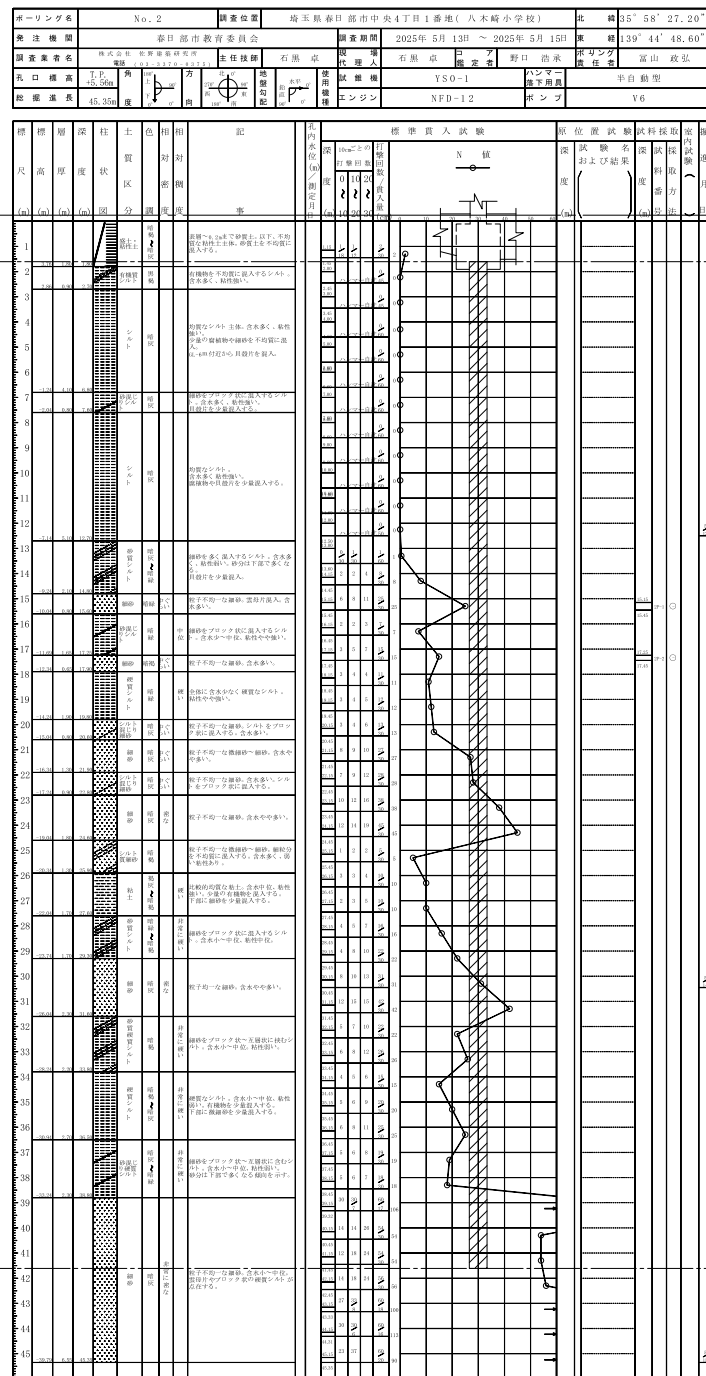
- ・補強プレートの溶接は角落ちを許容する。
- ・孔切断面にノッチが生じないように注意すること。
- ・特記で長スパン梁等での規定緩和を定めた場合は特記を優先する。ただし、規定緩和は中央部に限るものとする。
- ・下記のスリーブ補強工法の使用を可とする。ただし、工事監理者の承諾を受けて使用すること。なお、使用範囲等の規定は評定条件によること。
ハイリング工法（センクシア）・OSリング工法（岡部）
- ・制震部材が取り付く梁は貫通孔を不可とする。

ボーリング柱状図

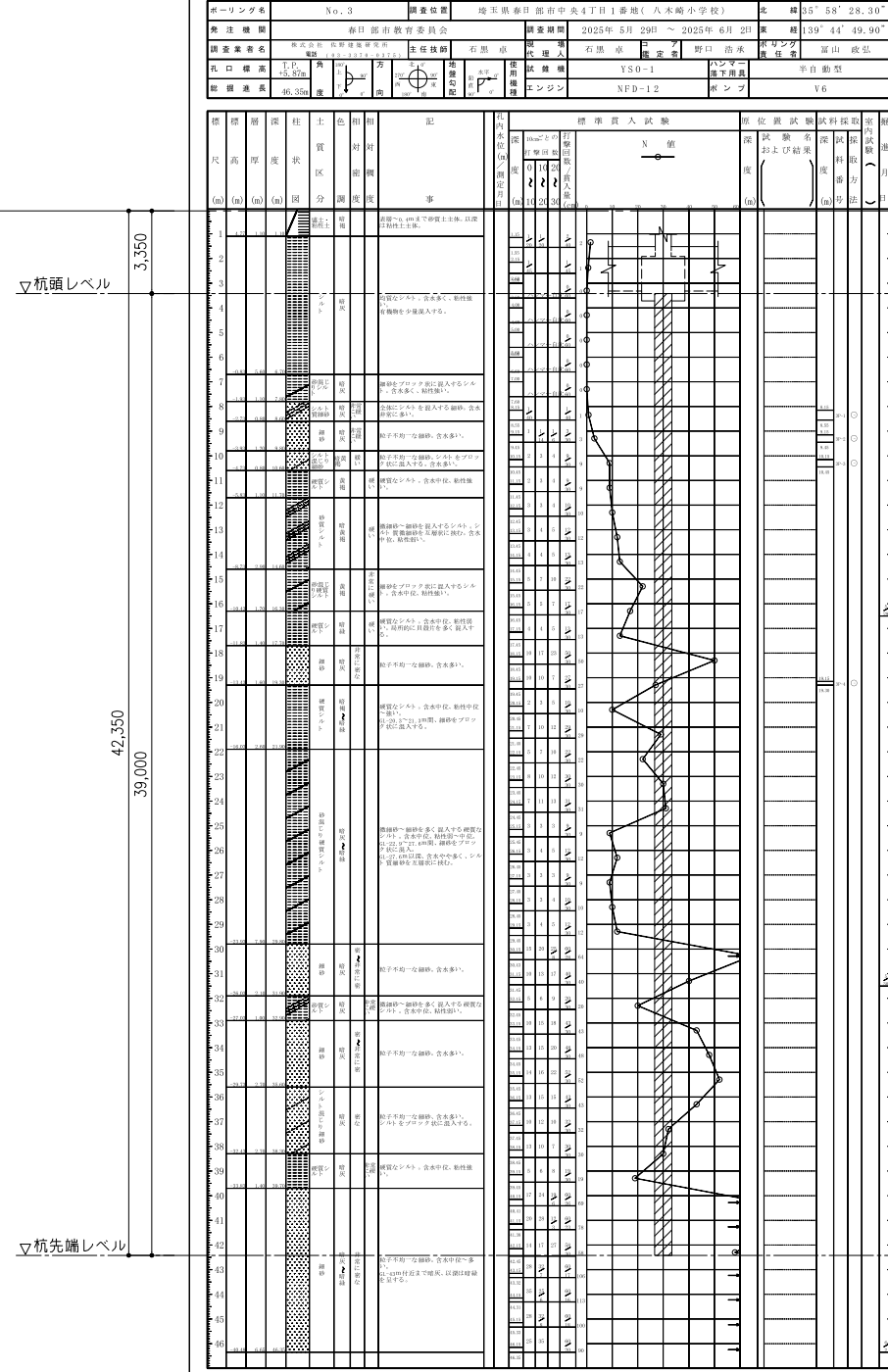
No.1 (T.P.+5.54m)



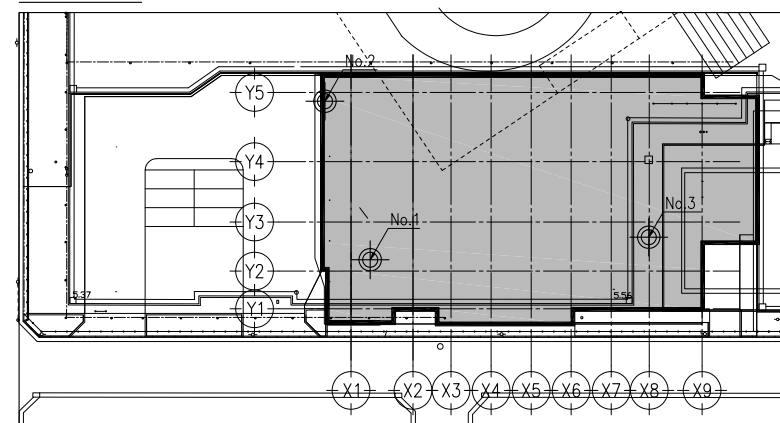
No.2 (T.P.+5.56m)



No.3 (T.P.+5.87m)



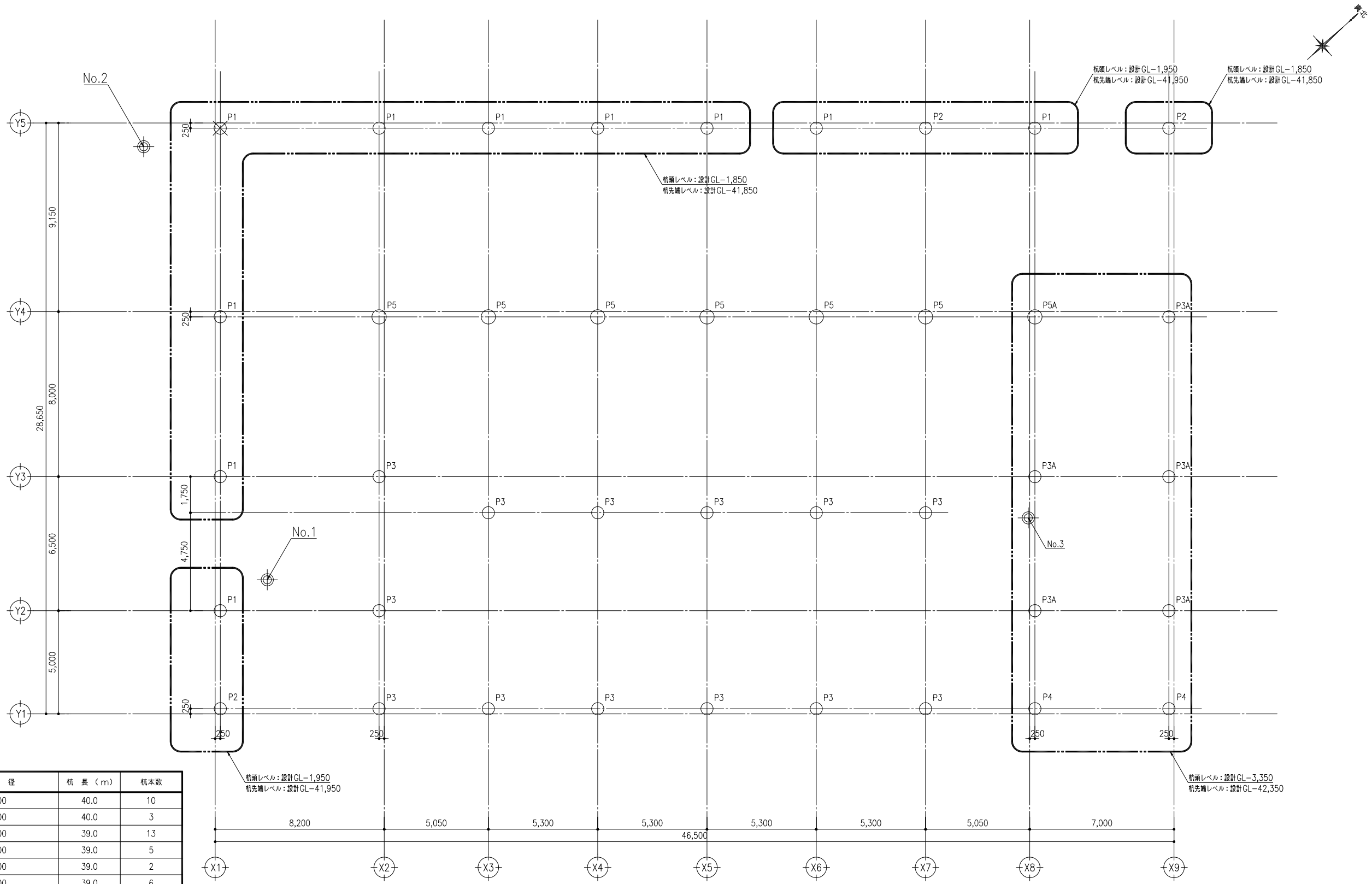
調査位置図



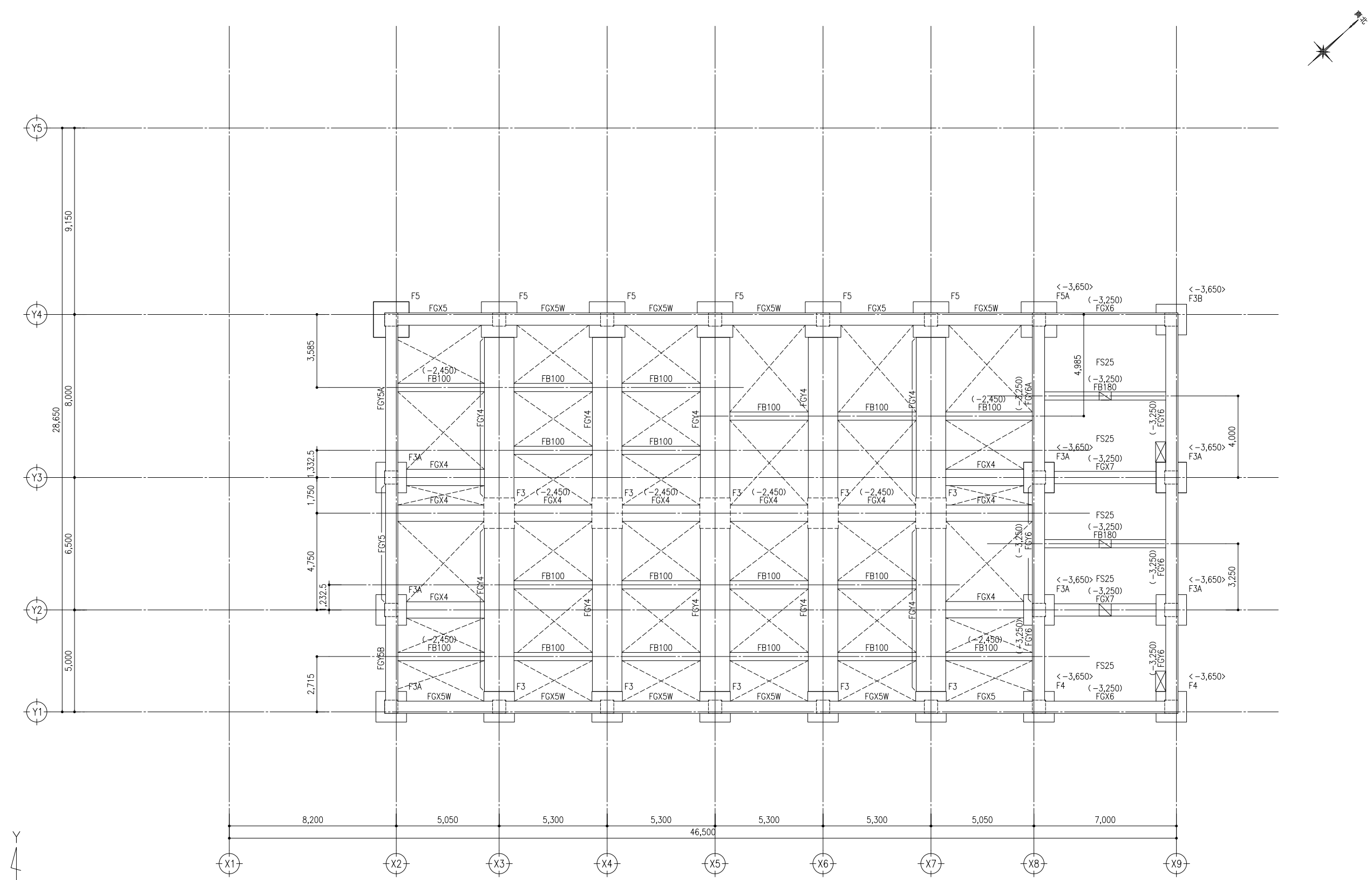
		春日部市 学校教育課 教育施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : ----	春日部市学校温水プール建設工事	ポーリング柱状図	S-015
				A3 : ----			

杭リスト

符 号	杭 径	杭 長 (m)	杭本数
P1	φ600	40.0	10
P2	φ600	40.0	3
P3	φ600	39.0	13
P3A	φ600	39.0	5
P4	φ600	39.0	2
P5	φ700	39.0	6
P5A	φ700	39.0	1
合 計			40



杭伏図	1/200
特記を除き	設計GL=T.P.+5,800
杭芯	柱芯
杭工法	Hyper-ストレート工法
杭種	既製コンクリート杭
杭頭レベル	設計GL=2,750
杭先端レベル	設計GL=41,750
印はボーリング位置を示す	
印は試験杭位置を示す	(本杭と兼ねる)



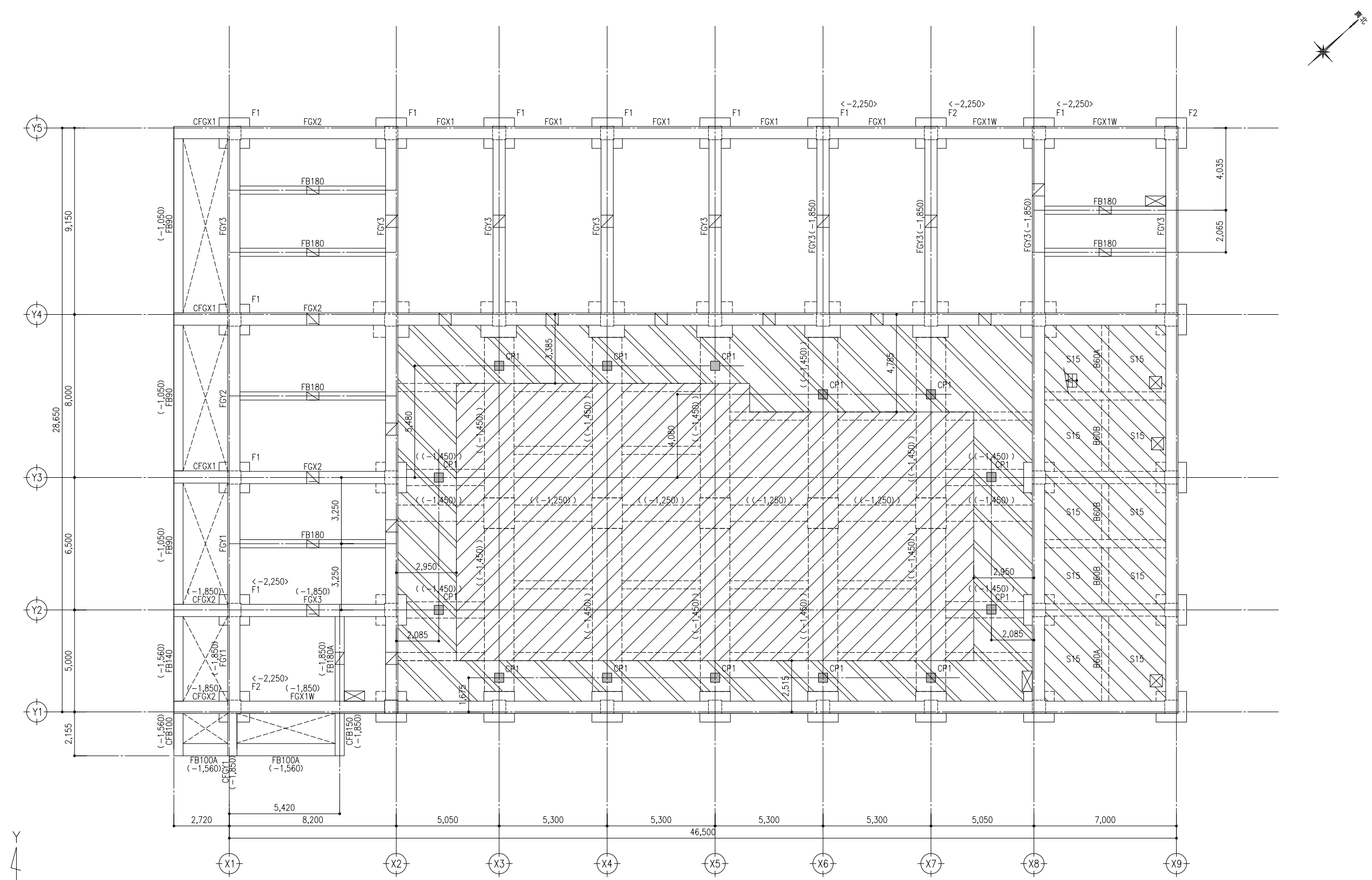
基礎伏図 設計GL-3,000 1/200

特記を除き 設計GL=1FL-100

基礎梁下端レベル	設計GL-2,650
基礎小梁下端レベル	設計GL-2,250
基礎下端レベル	設計GL-3,050
耐圧スラブ下端レベル	設計GL-3,250
() 内数値は設計GLからの基礎梁下端を示す	
< > 内数値は設計GLからの基礎下端レベルを示す	

	印は人通孔を示す
	印は釜場 1,000x500xH300を示す
	印は埋め戻しを示す

		春日部市 学校教育課 教育施設課		縮 尺 A1 : 1/100 A3 : 1/200	工 事 名 称 春日部市学校温水プール建設工事	図 名 基礎伏図 GL-3,000	図面番号 S-017
--	--	------------------------	--	---------------------------------	----------------------------	----------------------	---------------



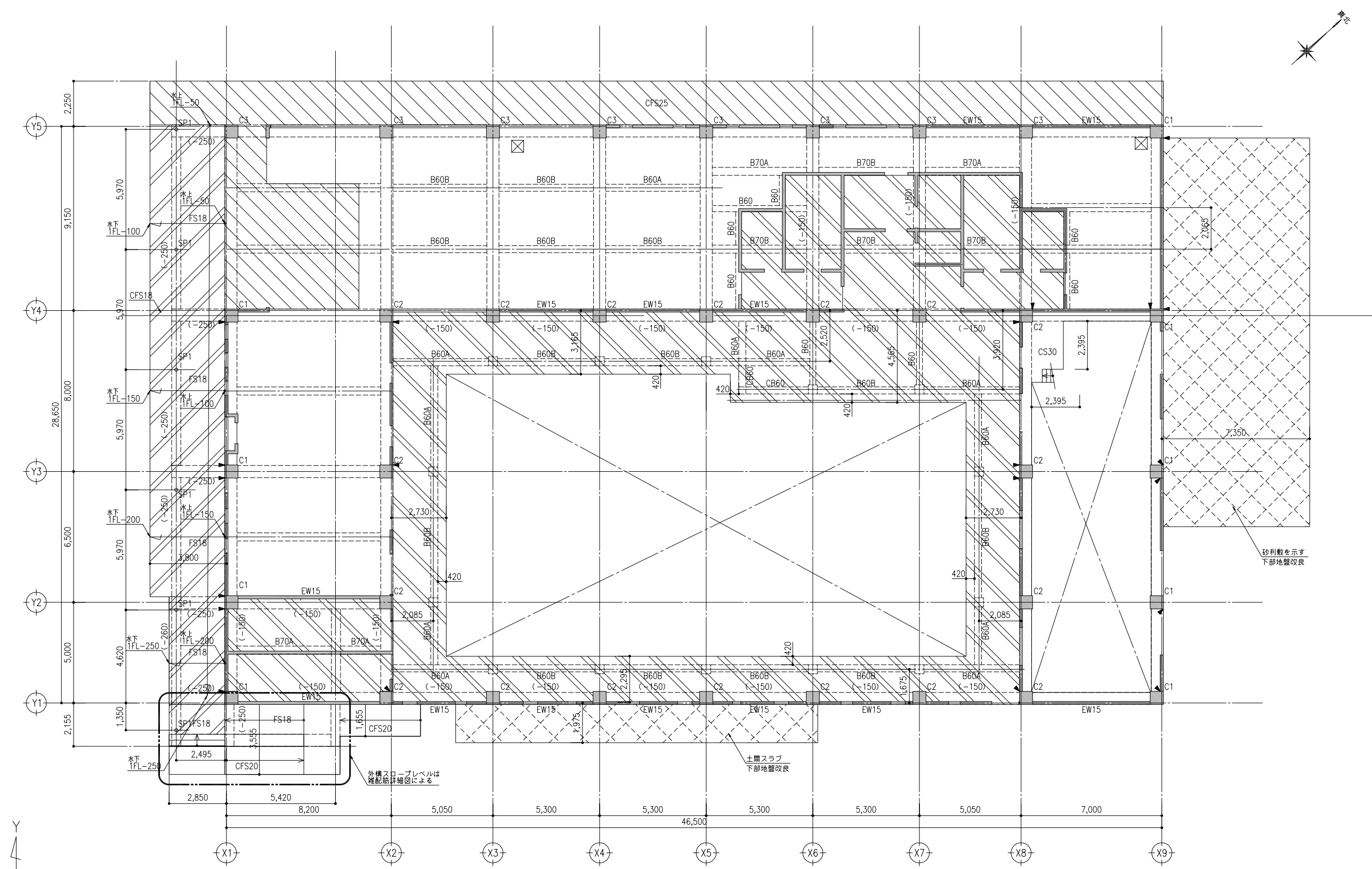
基礎伏図 設計GL-1,450 1/200

特記を除き 設計GL=1FL-100

耐圧スラブ符号	FS25
スラブ上端レベル	設計GL-1,450
耐圧スラブラ下端レベル	設計GL-1,500 (スラブ上端130mm打増し)
〃	設計GL-1,700
〃	設計GL-1,750
基礎下端レベル	設計GL-2,150

基礎梁下端レベル	設計GL-1,750
基礎小梁下端レベル	設計GL-1,750
() 内数値は設計GLからの基礎梁下端レベルを示す	
(()) 内数値は設計GLからの基礎梁上端レベルを示す	
< > 内数値は設計GLからの基礎下端レベルを示す	
小梁上端レベルはスラブ上端レベルと同レベルとする	

印は人通孔を示す
印はマンホール600x600を示す
印は釜場1,000x500xH300を示す
印は埋め戻しを示す



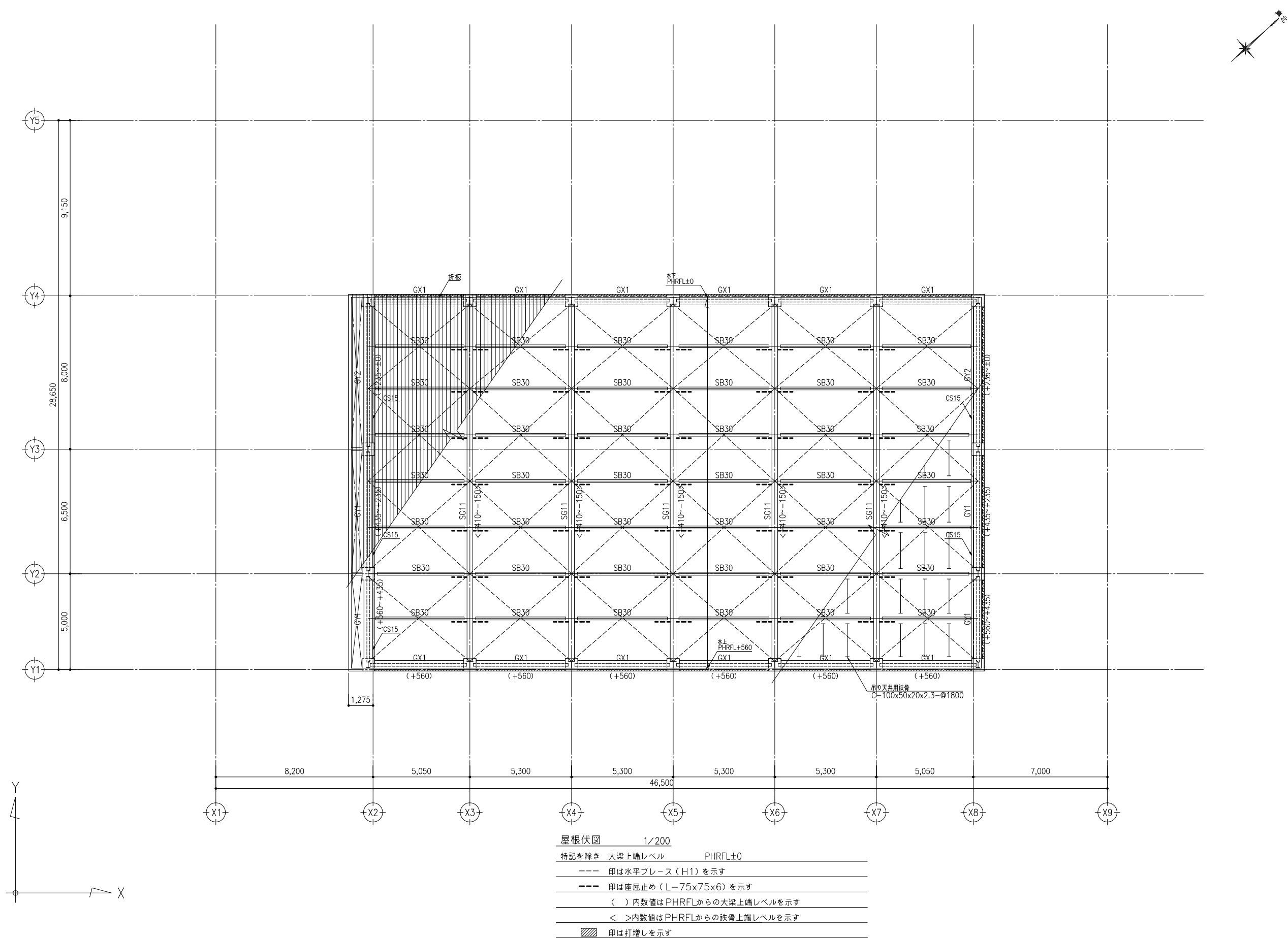
1階床伏図 1/200	
特記を除き 設計GL=1FL-100	
壁符号	W15
スラブ符号	S15
スラブ上端レベル	1FL-30
〃	1FL-50
〃	1FL-150
〃	1FL-250
基礎梁上端レベル	1FL-50
▼	印は鉛直スリットを示す
☒	印はマンホール600x600を示す
()	内数値は1FLからの基礎梁・基礎小梁上端レベルを示す
☒	印は釜場1,000x500xH300を示す
水勾配は打増勾配とする	

			春日部市 学校教育課 教育施設課		縮尺	工事名称	図名	図面番号
					A1: 1/100 A3: 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	1階床伏図	S-019



水勾配は打増し勾配とする

		春日部市 学校教育 施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100	春日部市学校温水プール建設工事	R階床伏図	S-020
				A3 : 1/200			



			春日部市 学校教育課 教育施設課		縮尺	工事名称	図名	図面番号
					A1 : 1/100 A3 : 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	屋根伏図	S-021

軸組図（1）1/200

特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う

壁符号 W15

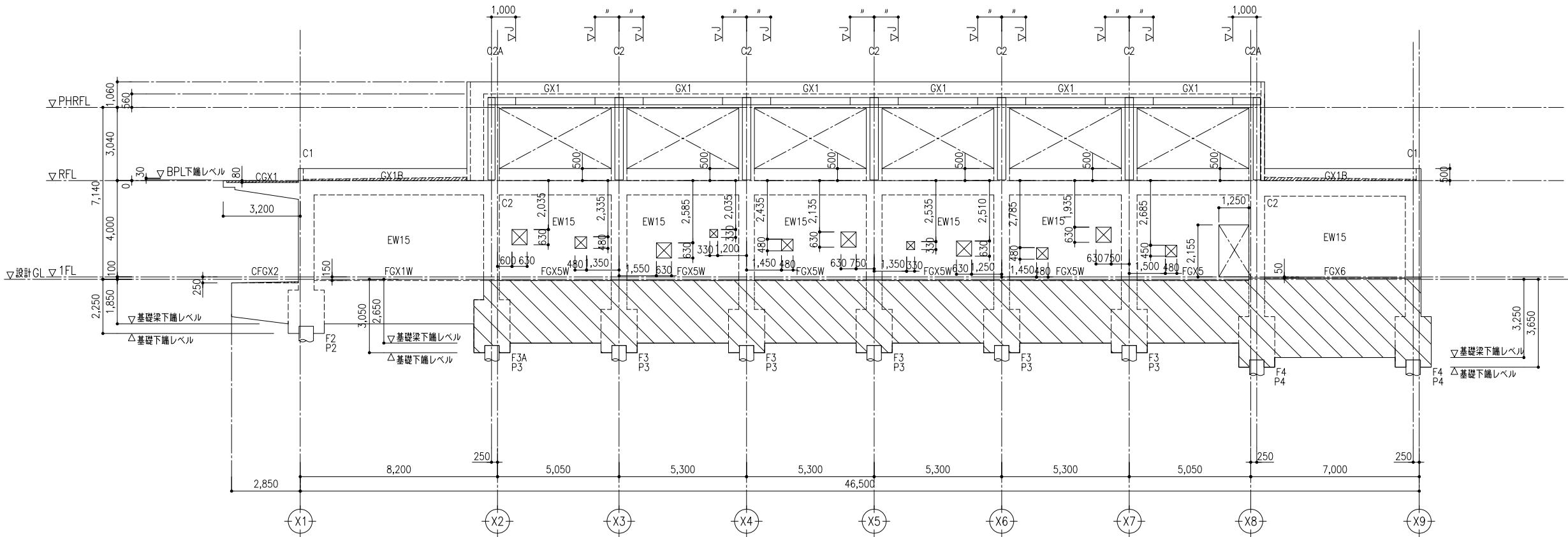
印はスリットを示す。

印はジョイント位置を示す。

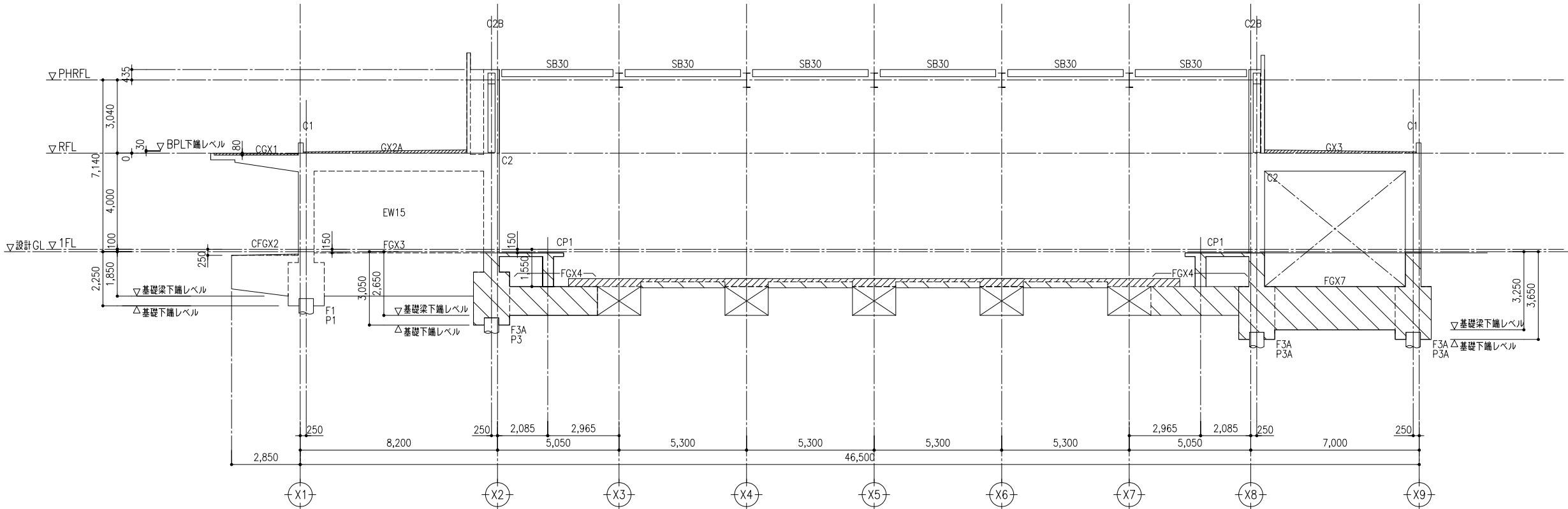
印は打増しを示す

印は膨張材使用範囲を示す

< >内数値は鉄骨上端を示す。



Y1通



Y2通

		春日部市 学校教育部 教育施設課		縮 尺 A1 : 1/100 A3 : 1/200	工 事 名 称 春日部市学校温水プール建設工事	図 名 軸組図（1）	図面番号 S-022
--	--	------------------------	--	---------------------------------	----------------------------	---------------	---------------

軸組図（2） 1/200

特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う

壁符号 W15

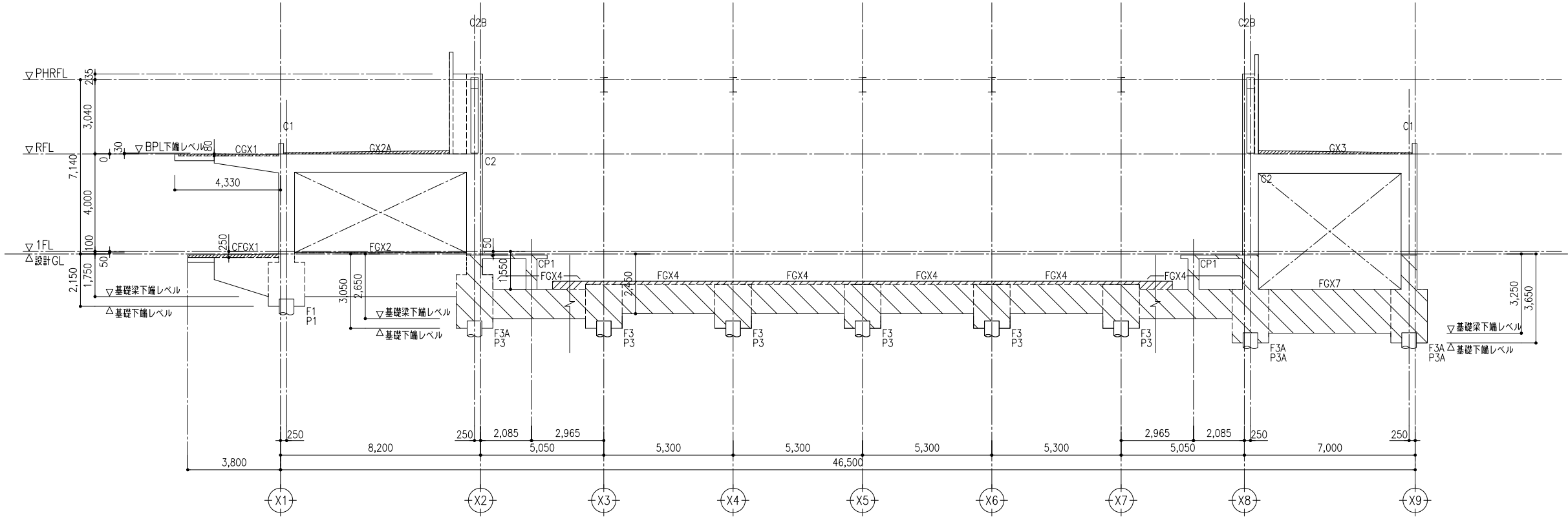
印はスリットを示す。

印はジョイント位置を示す。

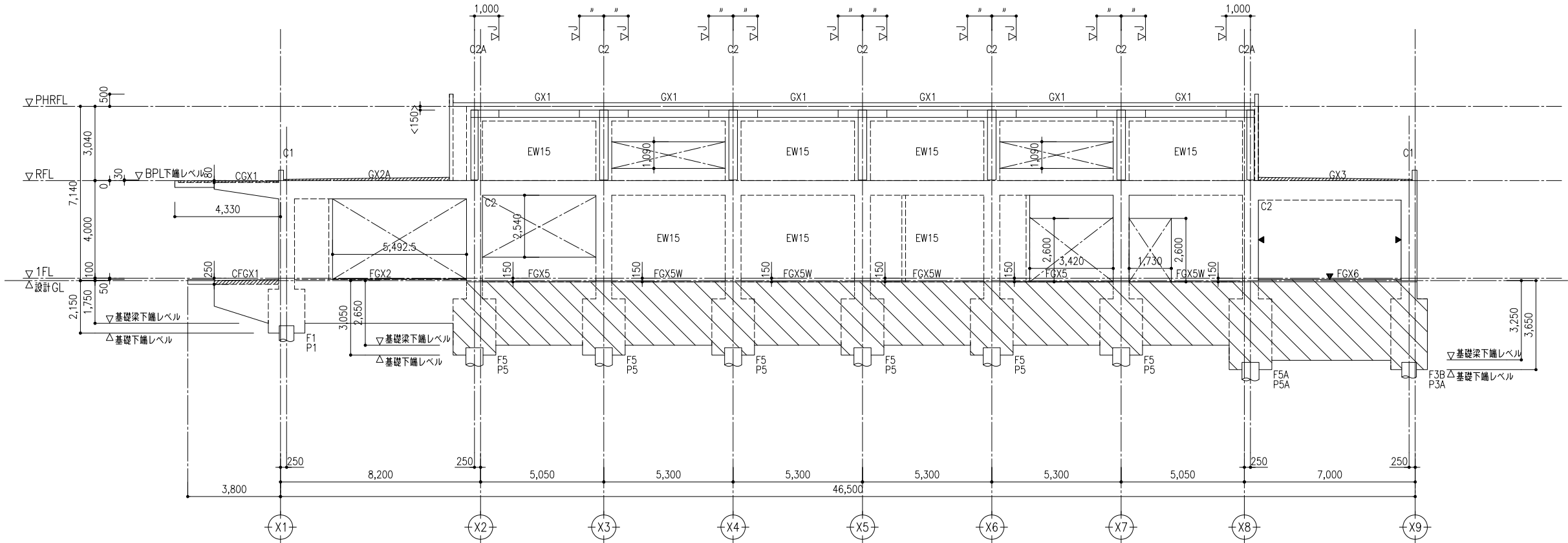
印は打増しを示す

印は膨張材使用範囲を示す

< > 内数値は鉄骨上端を示す。



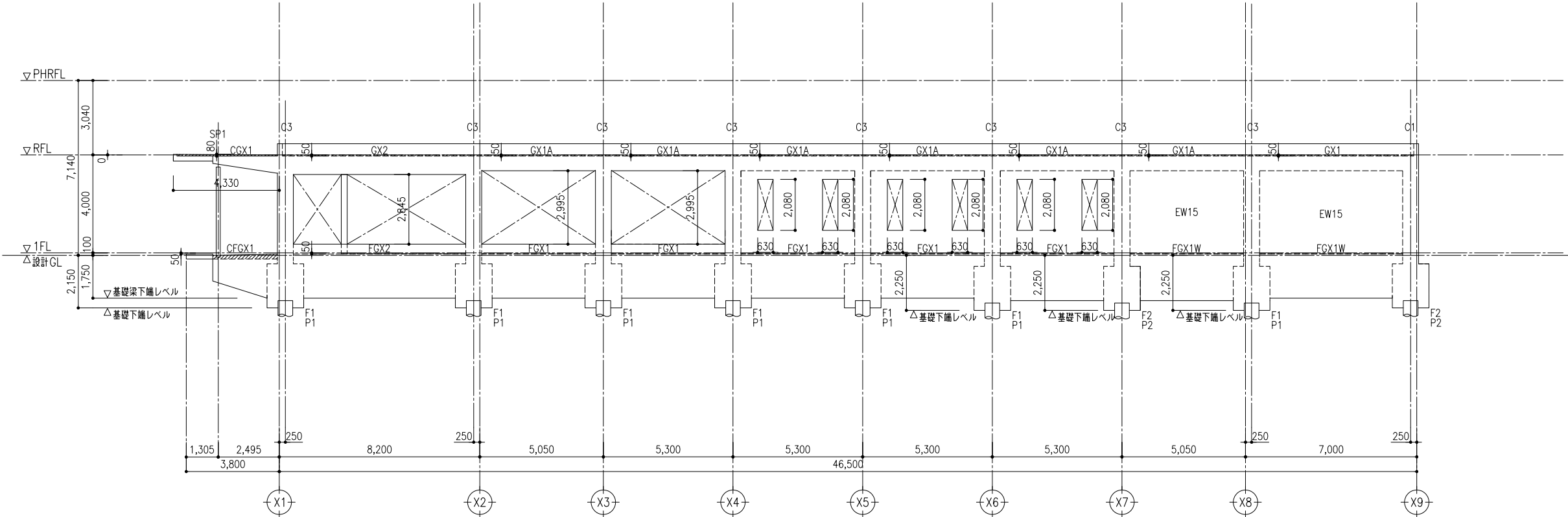
Y2+4,750~Y3通



Y4通

		春日部市 学校教育 施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（2）	S-023
				A3 : 1/200			

軸組図（3） 1/200	
特記を除き	柱・梁符号は上階に倣う
壁符号	W15
印はスリットを示す。	
<	> 内数値は鉄骨上端を示す。



Y5通

		春日部市 学校教育課 教育施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100 A3 : 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（3）	S-024

軸組図（４） 1/200

特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う

壁符号 W15

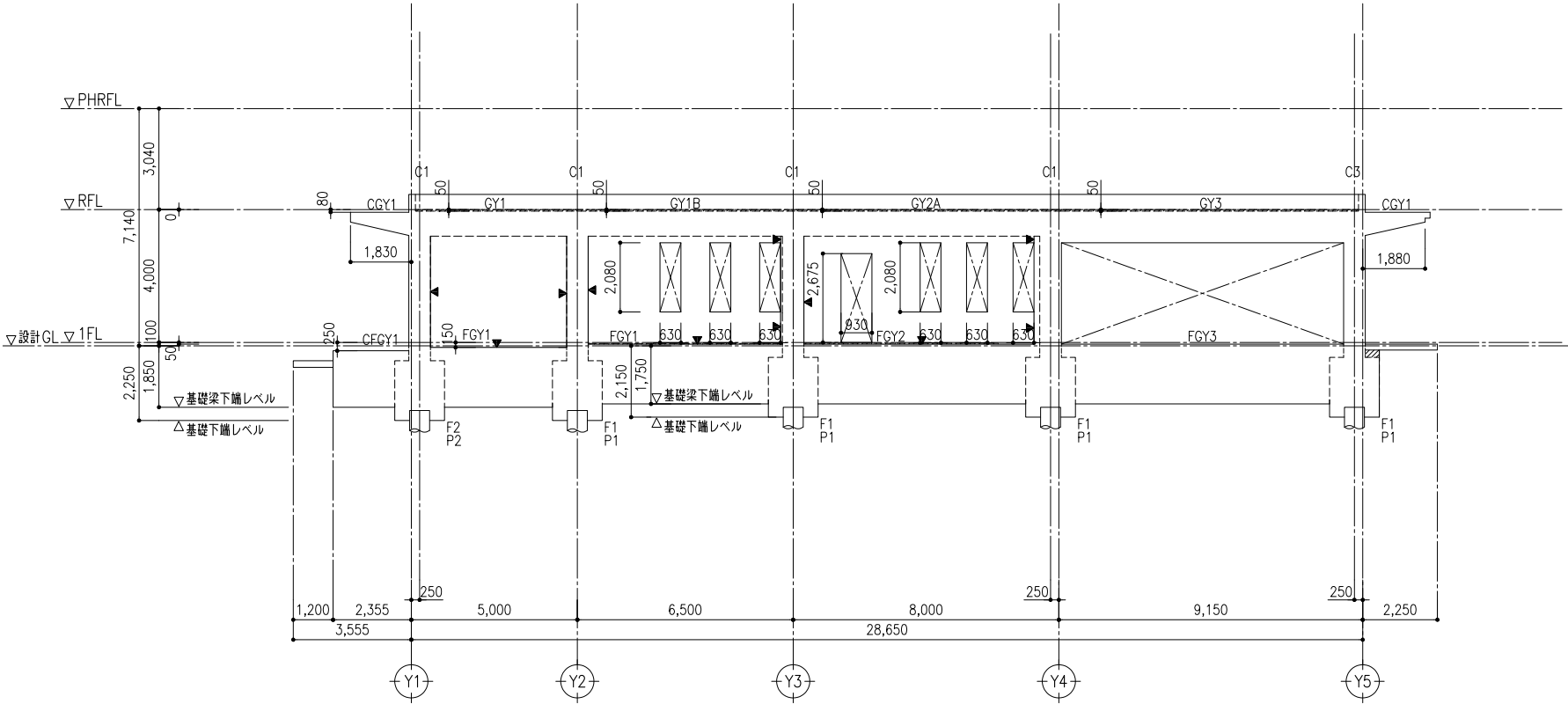
▽ J 印はジョイント位置を示す。

印は打増しを示す

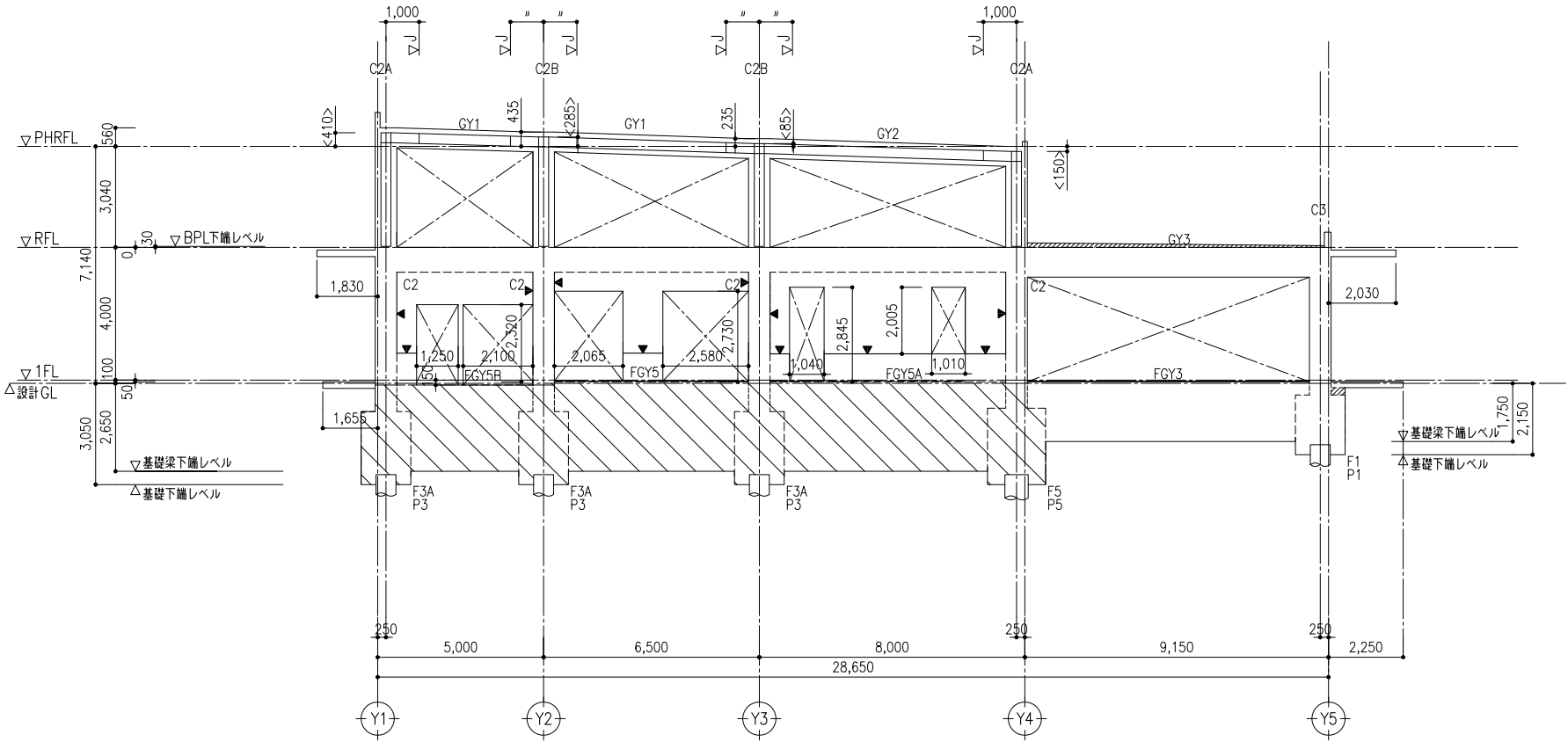
印はスリットを示す。

印は膨張材使用範囲を示す

< > 内数値は鉄骨上端を示す。



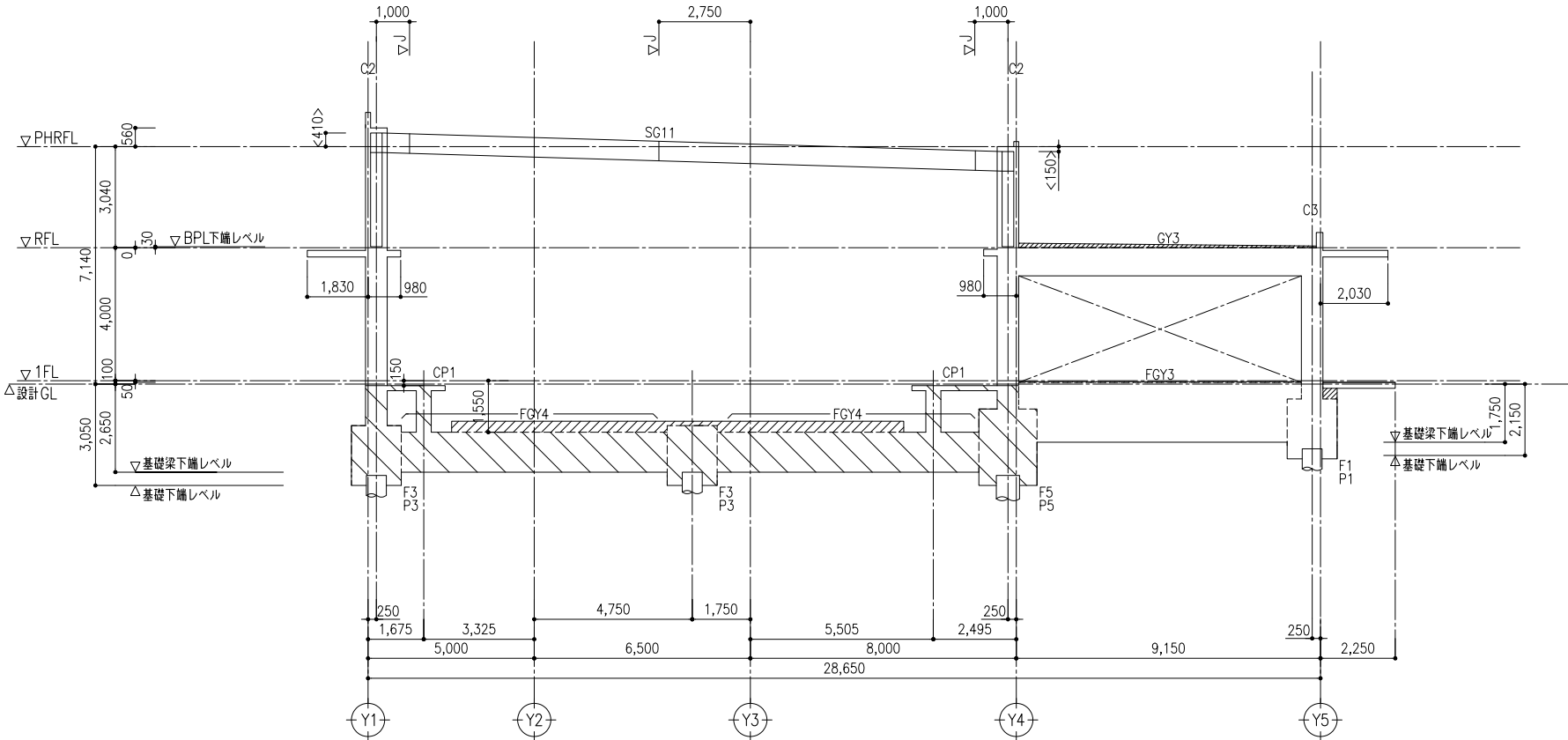
X1通



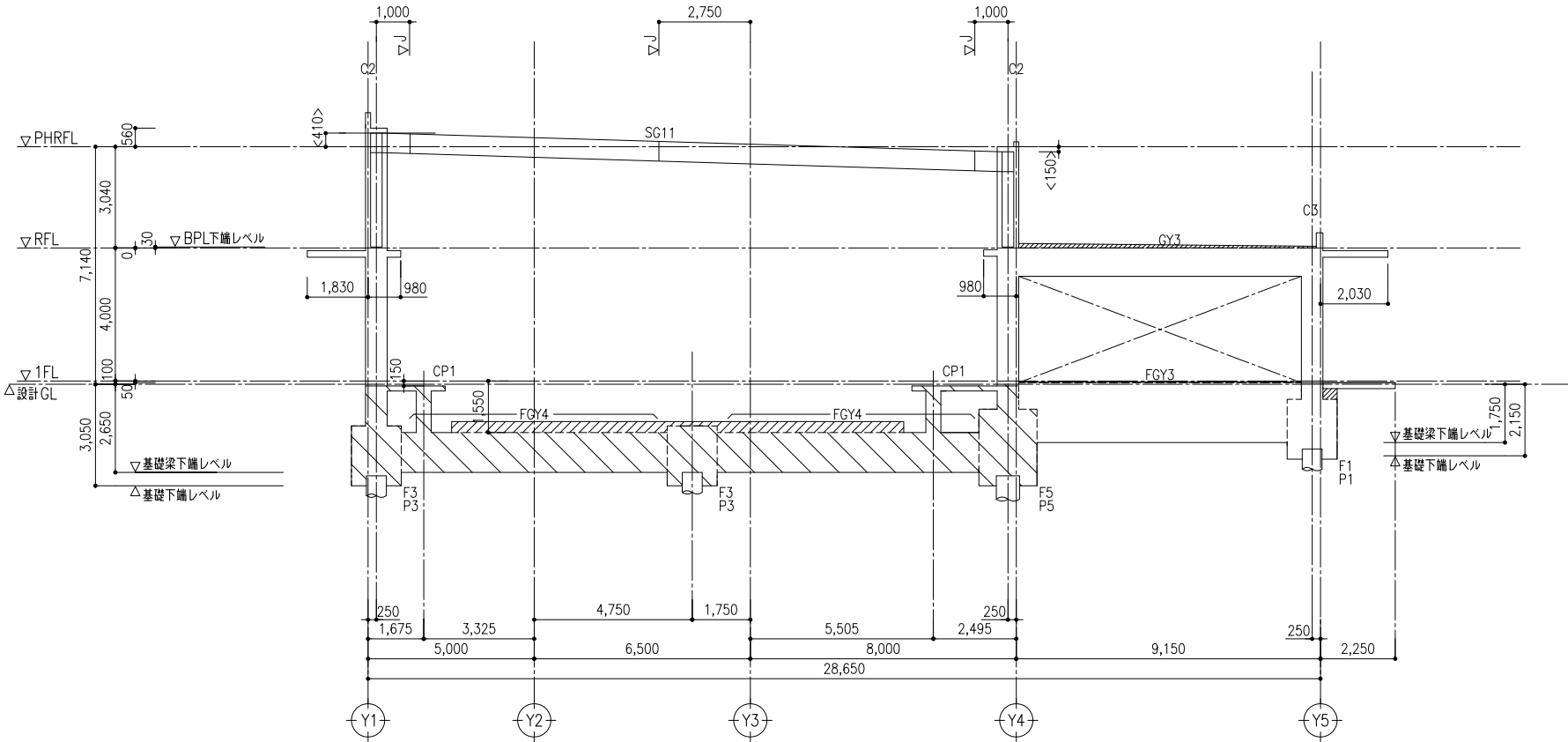
X2通

		春日部市 学校教育 施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100 A3 : 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（４）	S-025

軸組図（5） 1/200	
特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う	
壁符号	W15
▽ J	印はジョイント位置を示す。
	印は打増しを示す
< >	内数値は鉄骨上端を示す。
	印はスリットを示す。
	印は膨張材使用範囲を示す



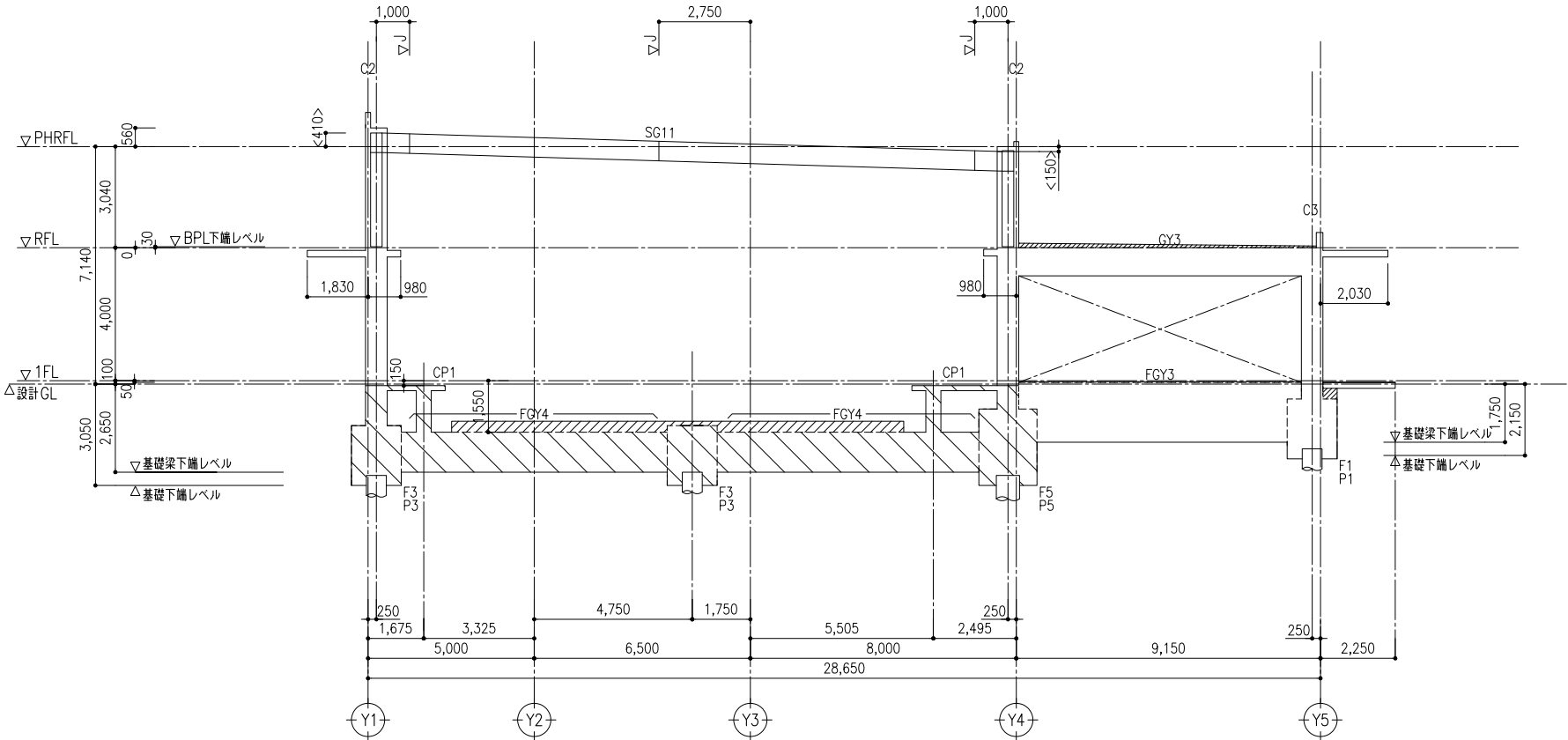
X3通



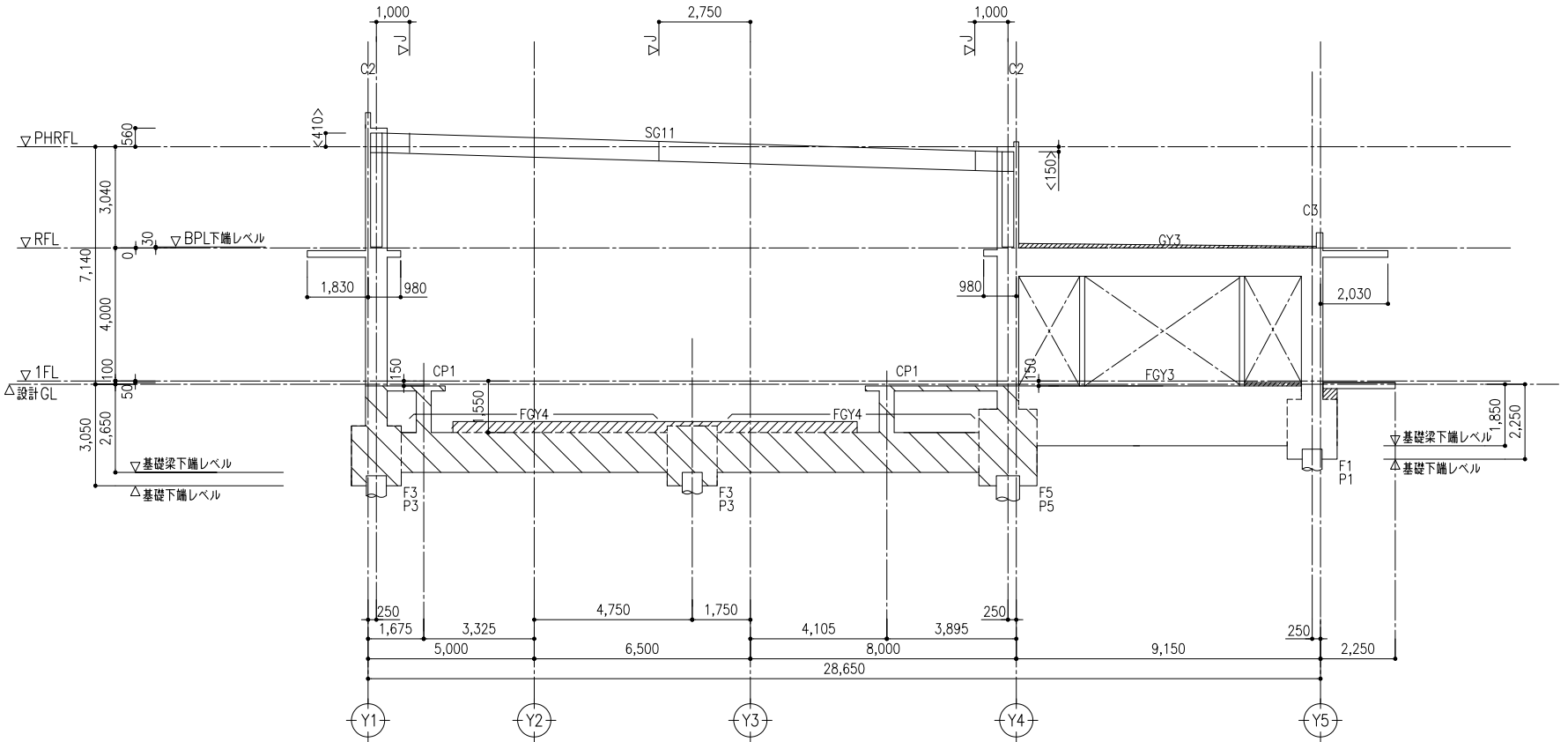
X4通

		春日部市 学校教育 施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100 A3 : 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（5）	S-026

軸組図（6） 1/200	
特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う	
壁符号	W15
▽ J	印はジョイント位置を示す。
	印は打増しを示す
< >	内数値は鉄骨上端を示す。
	印はスリットを示す。
	印は膨張材使用範囲を示す



X5通



X6通

		春日部市 学校教育 施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100 A3 : 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（6）	S-027

軸組図（7） 1/200

特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う

壁符号 W15

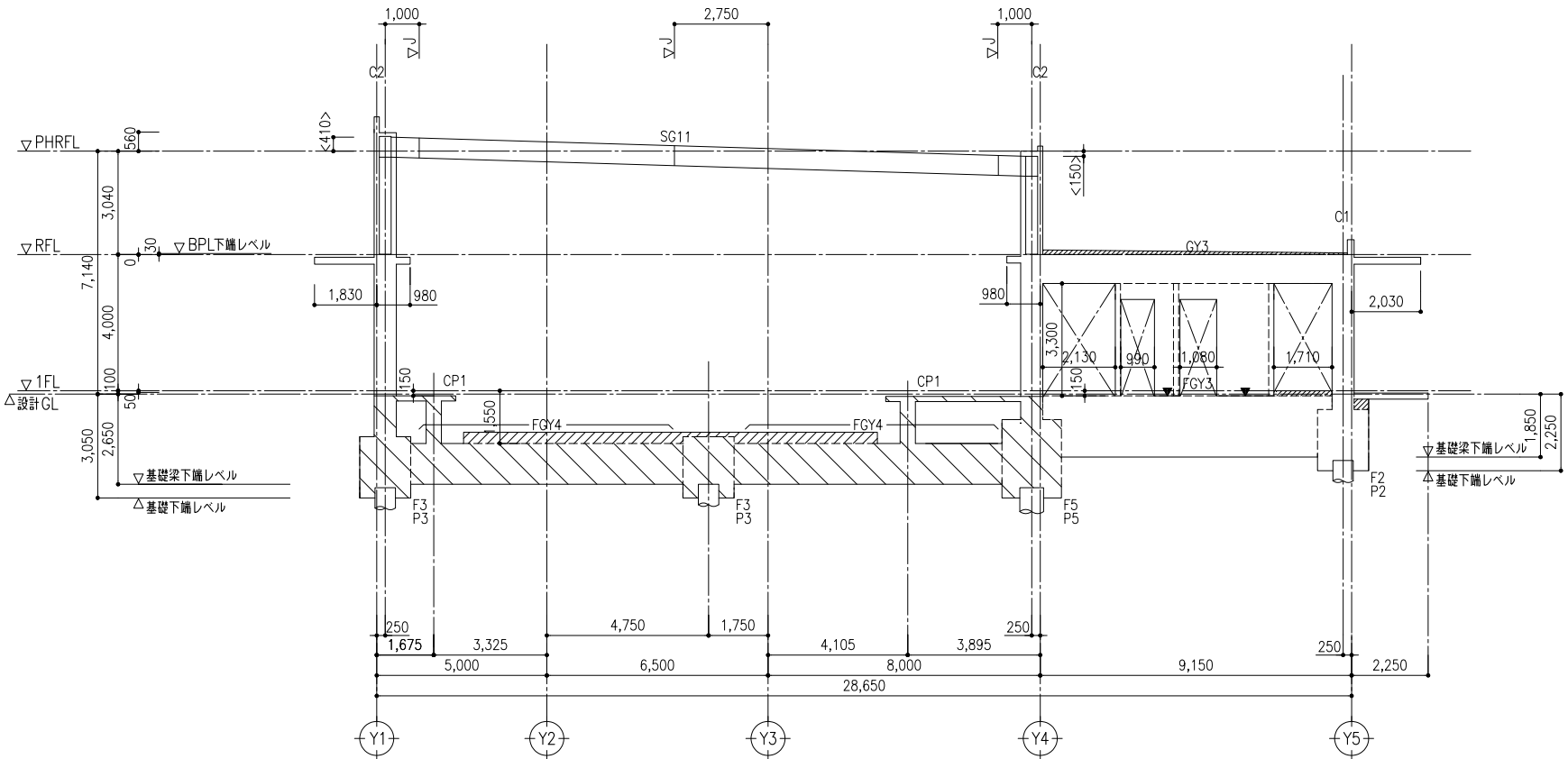
▽J 印はジョイント位置を示す。

印は打増しを示す

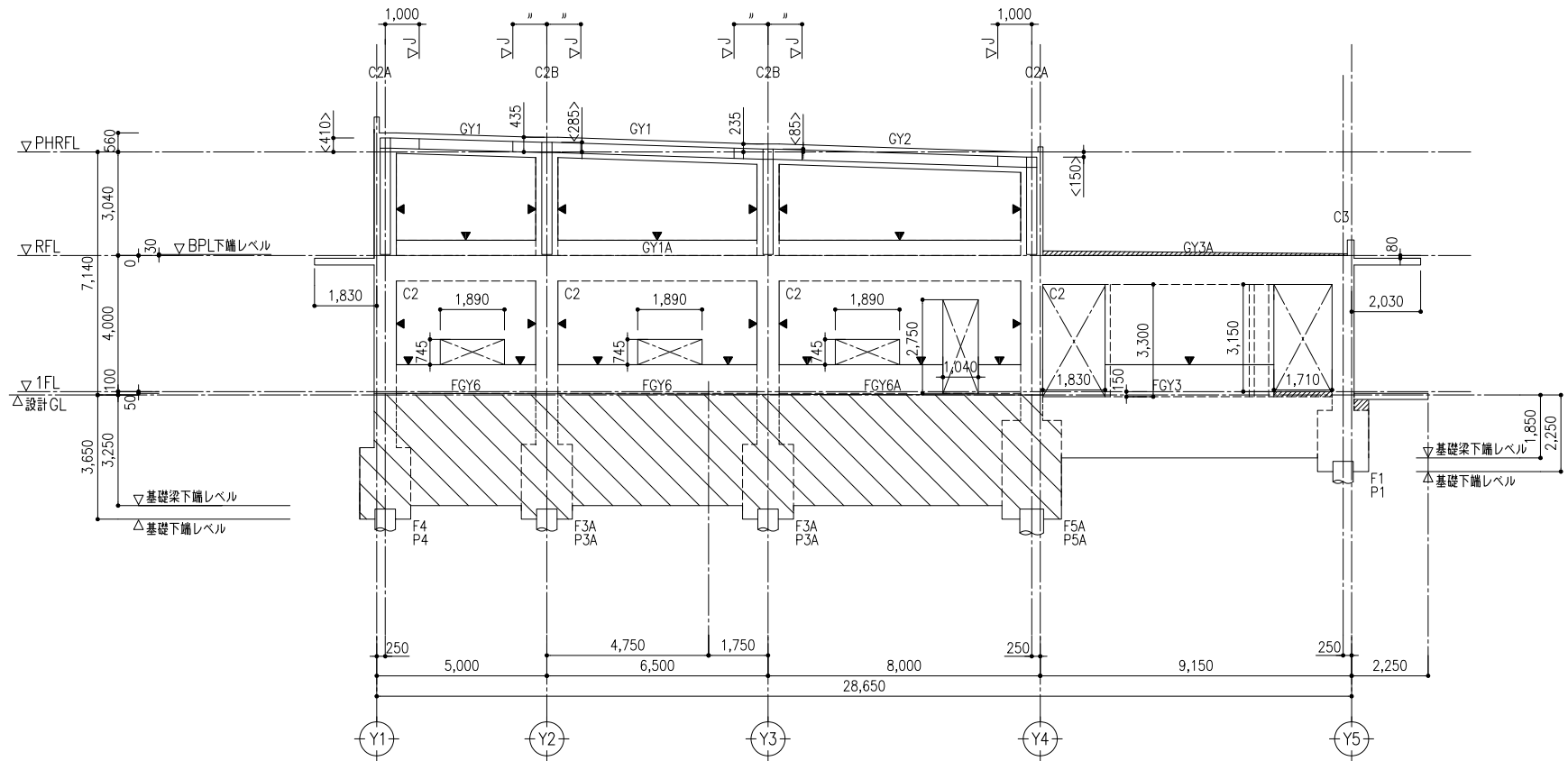
< > 内数値は鉄骨上端を示す。

印はスリットを示す。

印は膨張材使用範囲を示す



X7通



X8通

		春日部市 学校教育 施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（7）	S-028
				A3 : 1/200			

軸組図（8） 1/200

特記を除き 柱・梁符号は上階に倣う

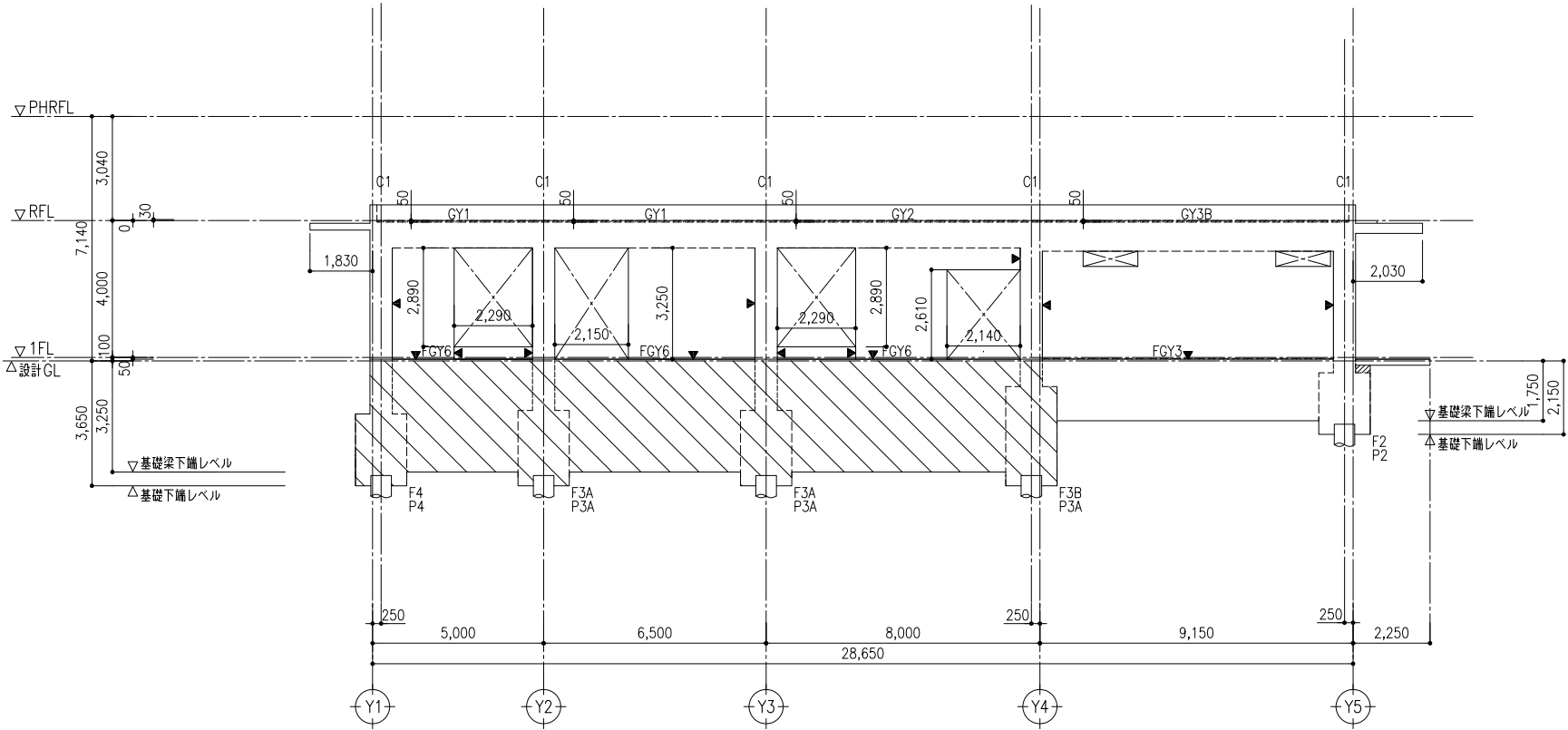
壁符号 W15

印は打増しを示す

印はスリットを示す。

印は膨張材使用範囲を示す

< > 内数値は鉄骨上端を示す。



X9通

		春日部市 学校教育課 教育施設課		縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
				A1 : 1/100 A3 : 1/200	春日部市学校温水プール建設工事	軸組図（8）	S-029

既製杭特記仕様書						
共 通 事 項	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 令和4年版(4章1節、4章2節、4章3節)による。					
工 法	あらかじめ杭施工計画書を工事監理者に提出して承諾を受ける。 プレボーリング拡大根固め工法(Hyper-ストレート工法) 大臣認定番号 TACP-04O2,04O4 (砂質地盤) 又は 同等工法 先端根固めは、認定条件に準拠すること。 杭周固定は、認定条件に準拠すること。 杭周充填液 ※標準型 ・膨張型					
既 製 杭	既製杭は性能評価取得品を使用すること					
杭頭定着鉄筋	コンクリート強度 FC=105N/mm ² 工法: New J-BAR 鉄筋: WD38J (WSD390)					
施 工 管 理	杭芯ずれ 杭径1/4 かつ100mm以下 ・杭芯にずれが生じないよう施工に注意すること。 ・杭芯位置の実測を行い工事監理者に報告し、必要に応じて補強方法等の指示を受けること。 鉛直精度 1/200以下とする。 ・施工記録を工事監理者に提出すること。 隣接杭 隣接する杭の施工については同時掘削は行わないこと。					
杭部材表						
符 号		P1	P2	P3 (P3A)	P4	P5 (P5A)
上杭	杭種別	SC	SC	SC	SC	SC
	杭径Dp1 (mm)	600φ	600φ	600φ	600φ	700φ
	Fc (N/mm ²)	105	105	105	105	105
	肉 厚 (mm)	90	90	90	90	100
	鋼管材質	SKK490	SKK490	SKK490	SKK490	SKK490
	鋼管厚 (mm)	9	12	9	12	9
中杭	杭 長 (m)	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	杭種別	PHC B種	PHC C種	PHC C種	PHC C種	PHC A種
	杭径Dp1 (mm)	600φ	600φ	600φ	600φ	700φ
	Fc (N/mm ²)	105	105	105	105	105
	肉 厚 (mm)	90	90	90	90	100
下杭 1	杭 長 (m)	11.0	11.0	10.0	10.0	10.0
	杭種別	PHC A種	PHC C種	PHC A種	PHC C種	PHC A種
	杭径Dp1 (mm)	600φ	600φ	600φ	600φ	700φ
	Fc (N/mm ²)	105	105	105	105	105
下杭 2	肉 厚 (mm)	90	90	90	90	100
	杭 長 (m)	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
	杭種別	PHC A種	PHC C種	PHC A種	PHC C種	PHC A種
	杭径Dp1 (mm)	600φ	600φ	600φ	600φ	700φ
杭頭定着鉄筋 (New J-BAR)		8-WD38J	10-WD38J	8-WD38J (10-WD38J)	12-WD38J	12-WD38J (13-WD38J)
杭全長 (m)		40.0	40.0	39.0	39.0	39.0
杭頭厚 (mm)		300	300	300	300	300
長期許容支持力 (kN/本)		3,250	3,000	3,000	3,000	5,000
杭 本 数		10	3	13 (5)	2	6 (1)
合 計		40				

杭配筋要領図						

鋼管外周定着筋溶接要領						

(1) 鋼管材質が400級の場合

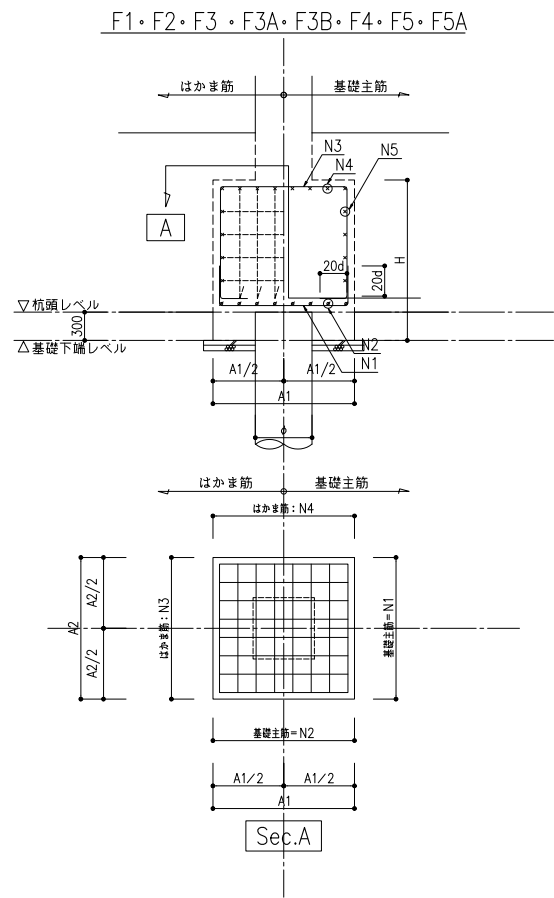
材 質	WSD390			WSD490			
NewJ-BAR 径	WD32J	WD35J	WD38J	WD32J	WD35J	WD38J	WD41J
有効のど厚 (a)	10.0mm	10.5mm	12.5mm	10.0mm	10.5mm	12.5mm	13.0mm
溶接長 (L)	140mm	160mm	160mm	180mm	200mm	200mm	220mm
最小埋込深さ(Lo)	230mm	250mm	250mm	270mm	290mm	290mm	310mm
製 品 長	1,280mm	1,410mm	1,510mm	1,550mm	1,690mm	1,820mm	1,970mm
最小配筋間隔	100mm	105mm	110mm	100mm	105mm	110mm	120mm
	上記数値は溶接作業用最小値であるが、溶接作業性に悪影響がなければ2.7d以上とする。						
溶接技能者資格	JIS Z 3841-1997 SA-2V 又は AW検定工事現場溶接Ⅲ類			JIS Z 3841-1997 SA-3V 又は AW検定工事現場溶接Ⅲ類			
溶接材料	JIS Z 3313 2層盛以上とすること						
溶接部検査	外観目視検査は全数。必要に応じて非破壊検査を実施する。						

(2) 鋼管材質が490級の場合

材 質	WSD390			WSD490			
NewJ-BAR 径	WD32J	WD35J	WD38J	WD32J	WD35J	WD38J	WD41J
有効のど厚 (a)	10.0mm	10.5mm	12.5mm	10.0mm	10.5mm	12.5mm	13.0mm
溶接長 (L)	140mm	160mm	160mm	150mm	180mm	180mm	190mm
最小埋込深さ(Lo)	230mm	250mm	250mm	240mm	270mm	270mm	280mm
製 品 長	1,280mm	1,410mm	1,510mm	1,520mm	1,670mm	1,800mm	1,940mm
最小配筋間隔	100mm	105mm	110mm	100mm	105mm	110mm	120mm
	上記数値は溶接作業用最小値であるが、溶接作業性に悪影響がなければ2.7d以上とする。						
溶接技能者資格	JIS Z 3841-1997 SA-2V 又は AW検定工事現場溶接Ⅲ類			JIS Z 3841-1997 SA-3V 又は AW検定工事現場溶接Ⅲ類			
溶接材料	JIS Z 3313 2層盛以上とすること						
溶接部検査	外観目視検査は全数。必要に応じて非破壊検査を実施する。						

				縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
			春日部市 学校教育 施設課	A1 : --- A3 : ---	春日部市学校温水プール建設工事	杭リスト	S-030

基礎部材表



基礎部材表

※偏心が生じた場合には設計者と協議の上
補強筋を追加するなど適切に対応すること。

基礎符号	F1	F2	F3	F3A	F3B	F4	F5	F5A
杭符号	P1	P2	P3	P3,P3A	P3A	P4	P5	P5A
杭 径	600φ	600φ	600φ	600φ	600φ	600φ	700φ	700φ
A1	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,750	1,750
A2	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,750	1,750
高さH	1,800	1,800	1,800	2,200	2,900	2,100	2,300	2,900
基礎主筋	N1	8-D16	8-D16	8-D16	8-D16	8-D16	9-D16	9-D16
	N2	8-D16	8-D16	8-D16	8-D16	8-D16	9-D16	9-D16
はかま筋	N3	8-D13	8-D13	8-D13	8-D16	8-D13	9-D16	9-D16
	N4	8-D13	8-D13	8-D13	8-D16	8-D13	9-D16	9-D16
横筋	N5	D13-@300	D13-@300	D16-@100	D16-@100	D13-@300	D16-@100	D16-@100

特記を除き スターラップ D13-@200																						
基礎梁リスト 1/80 腰 筋 6-D13 , 巾止め筋 D10-@1,000 柱芯ずれが150mm以下である場合は、基礎梁主筋の補強不要とする。																						
符 号	FGX1		FGX1W		FGX2		FGX3		FGX4		FGX5		FGX5W		FGX6		FGX7					
位 置	全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		X8 通端		中 央		X9 通端	
断 面																						
上 端 筋	5-D25		5-D25		10-D25		5-D25		9-D25		5-D25		5-D25		5-D25		9-D25		9-D25		9-D25	
下 端 筋	5-D25		5-D25		5-D25		5-D25		7-D25		5-D25		5-D25		5-D25		5-D25		9-D25		9-D25	
スターラップ																						
腰 筋									2-D13		8-D13		8-D13		10-D13							
備 考											腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。		腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。									
符 号	FGY1		FGY2		FGY3		FGY4		FGY5		FGY5A		FGY5B		FGY6							
位 置	全 断 面		全 断 面		Y4 通端		中 央		Y5 通端		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面		全 断 面	
断 面																						
上 端 筋	10-D25		10-D25		12-D25		12-D25		12-D25		22-D25		5-D25		8-D25		5-D25		5-D25		5-D25	
下 端 筋	5-D25		5-D25		8-D25		9-D25		9-D25		16-D25		5-D25		5-D25		5-D25		5-D25		5-D25	
スターラップ					5-D13-@200		5-D13-@200		5-D13-@200		6-D13-@200											
腰 筋													8-D13		8-D13		8-D13		10-D13		10-D13	
カットオフ長さ	2,400				3,900				3,200													
備 考													腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。		腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。		腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。		腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。		腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。	
符 号	FGY6A																					
位 置	Y3 通端		中 央		Y4 通端																	
断 面																						
上 端 筋	5-D25		8-D25		8-D25																	
下 端 筋	5-D25		5-D25		5-D25																	
スターラップ																						
腰 筋			10-D13		10-D13																	
備 考			腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。		腰筋は柱内にL2定着とし、 継手長さはL1とする。																	

配筋順序

梁断面に配筋するときの配筋順位は
X方向下端筋→Y方向下端筋→X方向上端筋→Y方向上端筋の順とする。

設計主筋位置

	X方向梁	Y方向梁
	上dt 下dt	上dt 下dt
FG	100 80	70 110

※施工主筋位置は、必要かぶり厚を
確保した上、上表の数値以内とする。

2 段筋の鉄筋芯-芯間隔

D25		
70		

※施工2 段筋位置は1.5d+d'
(d : 鉄筋呼び径、
d' : 鉄筋最外径)
を確保した上、上表の数値以内とする。

						縮 尺			工 事 名 称			図 名			図面番号		
			春日部市 学校教育部 教育施設課			A1 : 1/40 A3 : 1/80			春日部市学校温水プール建設工事			基礎梁リスト (1)			S-032		